



三徳開教110年

# 法音

今月のご法話

心を変えれば  
道は開けます

平成29年  
4月号 No.570

日蓮宗  
法音寺





# 一人が一人を

## 是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。  
法華経には、一人を導く功德は広大であるとあります。

その一人が、他の人を導く功德が大きいのです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

## 月刊・法音

平成二十九年四月号「570」

■目次■

【信仰の指針】唯一心ゆいしん

【朝のこない夜はない】

心を変えれば道は開けます

山首 鈴木正修

2

1

【特報】後藤新平伯爵のお孫さんが東京支院にご参詣

16

■釈尊降誕会（花まつり）が厳修されます

17

■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

18

■特別企画・聖の教え（十六）

20

■とこのはの記 三界皆苦 我当度之

30

■読者の声 笠原 潔（高槻支院）

34

■のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

36

■福祉のひろば 少子・高齢社会の中の日本の福祉

54

■福祉に生きる 昭徳会・特集

56

■法音寺のホームページが新しくなりました！

75

■日本福祉大学・福祉のチカラがこれからの日本を支える。TEAM福祉力

76

■賛助員ご芳名

78

■幸せの種まき／編集後記

80

■連載まんが・ひまわり・52 親切ポイント

81

■法音寺の社会福祉・教育事業

81

## 表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・サクラ

掲載写真 表紙・信仰の指針・3、15頁・17頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

唯一心  
ゆい いっしん  
すべては心の持ちようです

日教友



レンゲ



# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

# 心こころを変かえれば道みちは開ひらけます

## 「公案こうあん」に学まなぶ

公案こうあんという言葉ことばをご存知ぞんじでしょうか。公案こうあんとは俗ぞくにいう「禅問答ぜんもんどう」のことです。

公案こうあんには有名ゆうめいなものが3つあります。

一つ目は「隻手せきしゆの聲こえ」、これは白隠はくいん禅師ぜんじの公案こうあんで「両手りょうてをうち合あわせると音おとがするが、片手かたてでどんな音おとがするか」というものです。

二つ目は「狗子くし仏性ぶつじやう」、これは「犬いぬにも仏性ぶつじやうはあるのか」というものです。

三つ目は「祖師そし西来意せいらいい」、祖師そしとは達磨だるま大師たいしのこと



です。これは「達磨大師がインドから中国にやって来られた真意は何か」というものです。これは中国・唐の時代に一人の僧が趙州從諗という禅僧に尋ねたものですが、これに対し趙州和尚は「庭の柏檣だ」と答えました。

私などは正に禅問答という気がしますが、公案には完全な定まった答えがあるわけではないそうです。大事なのは「答える人の心」だということです。

## 執着

続けて趙州和尚のお話を紹介します。

修行僧が和尚に「私は今一切を捨てつくして、何も持っていないません。さあ、私はこれからどうするべきでしょうか」と尋ねると、和尚が「捨ててしまえ」と言



います。「捨ててしまえと言われても、もう何も持っていないのです。何を捨てるのですか」と言うと「その捨てるべき何もないというところを捨てるのだ」と重ねて言います。この問答は少しわかるような気がします。

〃執着を捨てた〃という思いが逆にとらわれとなって強い執着となることがあります。例えば、自分は世間の人々とは違い、執着を離れた崇高な境地にいるのだ〃と思うことは、これまた強い執着です。本来に執着を離れることは並大抵ではありません。

「断捨離」という言葉が流行ったことがあります、その極致は「ミニマリスト」と呼ばれる人たちではないでしょうか。生活に必要な最低限の物以外、何も持っていない人たちです。そういう人の部屋に入るとモデルルームみたいに何も無いようですが、実際には、モ



デルルームよりも物が少ないと言っ人もあります。

映画監督の紀里谷和明さんが、最近ミニマリストになつたと聞きました。紀里谷さんが言われます。

「僕も昔は、数十万円もするスーツを30着など、たくさん華美な洋服を持っていました。車も数千万円のものに乗っていました。これらが必要ないと思えるまでには、時間がかかりました。しかし冷静に考えると、それらのモノには、他人の価値観が入っていました。

人から格好いいと思われたいとか、誰々が良いと  
言っていたから、などの理由で購入してしまい、自分が  
本当に必要なとしていたモノではなかったから、無駄  
な消費だったわけです。僕自身は、ミニマリストやミニ  
マリズムという言葉を意識して生活しているわけでは  
ありませんが、ある時、すべてのモノに対し、これは  
本当に必要なのかと自問するようになりました。



スーツなども全部で1000万円分になっていたわけ  
で、今思うとゾツとします。10年以上かけて少しずつ  
モノが減っていき、今の状態に至ったという感じ  
です。お釈迦さまは言われています。

「人間に苦しみをもたらすものは欲望にとらわれる心  
である。すなわち執着である」

執着を捨て切るのはなかなかにおむずかしいこと  
ですが、日々努力しなければいけません。

## ひびこれしゅうよう 日々は修養

もう一つ趙州和尚のお話を紹介します。

入門したばかりの弟子が「私は修行に入ったばかり  
のものです。どうか仏教の根本を教えてください」と尋ね  
ました。和尚は「朝御飯は食べ終わったかね」



と聞きました。それに対して弟子は「はい、食べ終わりました」と答えました。和尚は「それならば、自分の茶碗を洗いなさい」と言われただけでした。つまり、日常の基本的なことをきちんとしていくことが仏教の根本だということなのです。道元禅師は「日常の行住坐臥を究めることによって、禅を究める」と言われています。

私が中学生の頃、ある人に「どうすれば勉強ができるようになりますか」と聞いたことがあります。

その人は「3つのことをすると良い」と言われました。た。

一つ目は毎日お父さんの靴を磨くこと。

二つ目は玄関の掃除をすること。

三つ目は食事の後片づけをして食器を洗うこと。

今振り返ると、とても良いことだったと思います。



父親の靴を磨くというのは「頭面撮足帰命礼」です。  
お釈迦さまのおみ足をいただくのと同じように、親を  
敬う気持ちが大それたことを教えられました。  
掃除や食器の後片づけをすることも、本当に大事な  
ことだと思っています。

世界的プロテニスプレーヤーの杉山愛さんのお母さんが「ああいうお子さんに育てるにはどうしたらよいのですか」という質問を受けました。それに対して「特別なことを教えるのではなくて、普段が大事ですよ。普段ちゃんとした生活を送っていると、その成果が出るのです。練習ばかりしていても本番で力はなかなか出ないものです。本番で力を出すためには、普段の生活が大事です。玄関の靴を揃えるとか、本を毎日15分読むとか、そういった毎日の目標を自分で決め



て、それをコツコツ積み重ねていくことによって試合  
で力が発揮できるのです」と言われていました。  
特別な時に力を発揮するには、日常の積み重ねが大  
事なのだと思わされました。

## 虻からの悟り

次は曹洞宗師家会長の青山俊董法尼の法話集から  
のお話です。これは公案ではありませんが、聞き手の  
心次第という事で公案に近いものと思います。

江戸末期、風外禅師という方が、大阪の破れ寺に住  
んでいました。ある日、川勝太兵衛という富豪が人生  
相談にやってきました。太兵衛がいろいろと悩みを訴  
えていると、そこへ一匹の虻が飛び込んできました。  
建てつけの悪い戸の隙間から飛び込んできた虻は、



ここから出ようと**思う窓に勢いよくぶつかっては落ち**  
**るといふ愚を繰り返しました。**風外禅師は太兵衛の**話**  
**を聞いて**いるのか**いないのか**、**蛇ばかりを見て**いまし  
**た。**たまりかねた太兵衛が、**思わず**「**禅師さまはよほ**  
**ど蛇がお好きとみえますなあ**」**と**言**うと**、**風外禅師は**  
**「**やあ、これはすまん**こと**でした。**しかし**あまりに**蛇**  
**がかわい**そう**で**なあ。**この寺は有名な破れ寺で窓も障**  
**子も破れて**いるし、**建てつけもガタガタ。**どこから**で**  
**も出**ていく**ところは**ある**のに**、**ここからしか出**られぬ  
**と**思**って**、**そこへ頭をぶつけて**は**ひっくり返**る。**こん**  
**な**ことを**して**いたら**死**んでしま**う**わ**いな。**しかし、**か**  
**わい**そんなのは**蛇ばかり**じゃ**ない**の。**人間も**よう**似**た  
ことを**や**って**お**り**ま**す**な**あ」と**語**りました。

蛇に**こと**よ**せて**の**教化**に**太兵衛は**ハ**ツ**と**気**づ**き**、**思**  
**わ**ず「**あ**りが**ご**う**ご**ざ**い**ま**し**た」と、**畳**に**頭**を**す**り**つ**



けてお礼を言って帰ったということです。

この話を澤木興道老師から聞いた評論家の田中忠雄という人が、ある会社の講演会で話したところ、数日してその会社の女性社員から手紙が届きました。

「私は一人の男性を愛しております。事情があつてどうしても結婚できず、絶望して死のうと思ひました。会社の仕事も整理し、帰って死のうと思つておりましたら、課長さんが『今日は講演会があるから受付をすように』と言われました。ぼんやりと受付に座つてゐる私の耳に、蛇の話が飛び込んできました。その瞬間、『アッ！私は蛇だった』と気づいたので。私は蛇だったと気づいたら、生きて行く勇氣が湧いて参りました。先生は命の恩人です」

この手紙に対して田中氏の返事は「あなたの命の恩人は、私ではなく蛇です。これからの人生にも、いろ



いろいろな山坂があるでしょう。行き詰ったと思ったとき、  
蛇を思い出してください」でした。

誰も、太兵衛やこの女性のように蛇になっ  
てしま  
う時があるものです。そういう時にこの蛇の話を思  
出すと、執着や思い込みから離れて新たな道や出口が  
目の前に現れてくるのではないでしょう

## 心を変える

窮地に陥ると人間は、なかなか物事を冷静に見るこ  
とができないものです。そして、思いつめて自殺をし  
てしまう人が残念なことに少なくありません。

私が同窓会に行った時、自殺をした二人の同窓生の  
話を聞きました。一人は失恋し、電車のホームから飛  
び込んだのです。「その人しかいない」と思いつめて



しまったために起きた、悲しい出来事です。

上智大学名誉教授の渡部昇一先生は、恋人に振られて落ち込んでいた学生がやってくると「良かったな」と声をかけられるそうです。そして「これは吉兆だよ。もっと良い人が現れるということだよ。前祝いに一杯の飲みにいこう」と言われるのだそうです。するとその後、「先生の言われる通り、良い人に出会えました」という報告が必ずあるそうです。思いを変えることによって、物事の見方が変わり、人生は開けていくものです。

もう一人の同窓生は、商売で失敗して車の中で練炭自殺をしていました。アメリカの大統領になられたトランプさんは、4回も倒産を経験されているそうです。4回倒産されましたが、奮起してまた億万長者となり、大統領にまでなられました。



人生は「七転び八起き」と言いますが、NHKの朝ドラ「あさが来た」のモデルとなった広岡浅子さんは「九転び十起き」を座右の銘としていたそうです。先年ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智さんも「成功した人は、人より倍も三倍も失敗している」と語っておられます。かのエジソンは言っています。「それは失敗じゃない。その方法でうまくいかないことがわかったんだから成功なんだ」

人生に起こることはすべて「捉え方」次第です。自分の心次第なのです。



## 特報

後藤新平伯爵のお孫さんが東京支院に

# 山首上人さまとご対面



さいました。後藤伯爵は始祖杉山先生・二祖村上先生とも親交が厚かった方です。

去る2月11日、東京支院で行われた節分会に、

『法音』2月(568号)「朝のこない夜はない」の中で、山首上人さまは後藤新平伯爵が台湾の発展に大変貢献されたという話をご紹介くだ

その後藤伯爵の孫にあたる内山章子うちやまのあやこさんがご参詣くださり、山首上人さまに面会されました。

章子さんは、戦後、参議院議員や厚生大臣を務めた鶴見祐輔氏と、後藤伯爵のご息女・愛子さんの間に出生された次女。社会学者で歌人の鶴見和子さんは姉。アメリカのプラグマティズムを日本に紹介した哲学者・鶴見俊輔氏は兄。章子さんの夫は政治学者で、法政大学教授・札幌大学学長などを歴任された内山尚三氏。章子さんご自身も『雪中花』『鶴見和子病床日誌』という本を出されているほか、2004年には京都造形芸術大学芸術学部通信教育部芸術学科へ入学され、83歳で同大学を卒業。まさにサミュエル・ウルマンの詩のような「青春」を謳歌されている方でした。

今月は全国の各支院・布教所にて

釈尊降誕会(花まつり)が厳修されます。

お釈迦さまのお誕生をお祝いし

正しく生きることをお誓いしましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

西春支院	4月2日(日)・花まつり	東京支院	4月8日(土)・大黒祭・授戒会
笠松布教所	4月12日(水)・講日	安城支院	4月18日(火)・講日
瀬戸布教所	4月19日(水)・講日		

# 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	釈尊降誕会	住 所	電話番号	今月の講話日
大乘山泰明寺	4月9日(日)	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069	5日・20日
開 基 堂		江南市寄木町天道18	☎(0587)5315436	10日
東京支院	4月2日(日)	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251	2日・8日・22日
山形布教所	4月5日(水)	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770	5日
静岡支院	4月12日(水)	磐田市城崎4-7-13	☎(0538)3216625	12日
豊川支院	4月20日(木)	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)8614704	4日・20日
安城支院	4月9日(日)	安城市新田町小山31-25	☎(0566)7612504	9日・18日・28日
明川支院	4月11日(火)	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0565)6712231	11日・22日
佐屋支院	4月9日(日)	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)3211825	4日・9日・24日
一宮支院	4月2日(日)	一宮市大江1-7-4	☎(0586)7217208	2日・15日・25日
西春支院	4月2日(日)	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)2215813	2日・12日・22日
岐阜支院	4月2日(日)	岐阜市切通7-15-22	☎(058)24512939	2日・14日・24日
笠松布教所	4月12日(水)	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)38812740	12日
大垣支院	4月1日(土)	大垣市宝和町5	☎(0584)7814854	1日・11日・21日
関 支 院	4月13日(木)	関市西福野町2-15-11	☎(0575)2210776	3日・13日・23日
平賀支院	4月5日(水)	関市市平賀2-13-2	☎(0575)2313771	5日・15日・25日
郡上八幡支院	4月8日(土)	郡上市八幡町小野72-1-3	☎(0575)6513933	8日・22日
四日市支院	4月3日(月)	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)35213633	3日・13日・22日
上野支院	4月21日(金)	伊賀市上野向島町3475	☎(0595)2110127	1日・11日・21日

京都支院	4月9日(日)	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437	1日・9日・20日
高槻支院	4月2日(日)	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003	2日・21日
大阪支院	4月9日(日)	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051	9日・23日
福井布教所		あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234	15日
和泉支院	4月2日(日)	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112	2日・16日・22日
神戸支院	4月8日(土)	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884	8日・21日
淡路支院	4月5日(水)	南あわじ市神代国衙9-10	☎(0799)42-0175	5日・25日
岡山支院	4月2日(日)	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818	2日・7日・23日
高知布教所	4月12日(水)	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983	12日
福山支院	4月16日(日)	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078	1日・16日
三原支院	4月8日(土)	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087	8日・23日
安芸津支院	4月2日(日)	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012	2日・23日
坂支院	4月9日(日)	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064	9日
福岡支院	4月2日(日)	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975	2日・16日
壱岐布教所	4月13日(木)	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)44-5445	13日・23日
筑後布教所		筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273	9日・23日
天草布教所		上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742	1日
田川支院	4月9日(日)	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819	9日・23日
名古屋地区	4月7日(金)	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135	7日・17日・27日
瀬戸布教所	4月9日(日)	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860	9日・19日・29日
亀岡布教所	4月10日(月)	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807	10日・23日

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

特別企画

# 聖の教え

(十六)

## 如説修行・一

「如説修行」とは「説の如く」つまり、經典・御書・先師の御文に教えられる通りに「実行する」ということ。このことについて先師は厳しかった。我々信徒一人ひとりを、本当の幸せは仏の境界に導きたいと、常に願っておられたからである。

◇五道諸有の身百八の重病に嬰り、恒常に相纏わされて無明・老・死の此の岸に安止せりと雖も、而も堅牢なる此の大乗經無量義の能く衆生を度することを辨ずることあるを、説の如く行ずる者は、生死を度することを得るなり。

無量義經・十功德品 二四頁

◇諸の菩薩の、深く諸の禪定に入つて、身心寂かに動せずして、以て無上道を求む。

妙法蓮華經・序品 五三頁

◇諸佛世尊は、衆生をして佛知見を開かして清淨なることを得せしめんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生に佛知見を示さんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生をして佛知見

を悟らしめんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生をして佛知見の道に入らしめんと欲するが故に、世に出現したもう。舍利弗、是れを諸佛は唯一大事の因縁を以ての故に、世に出現したもうとなづく。

妙法蓮華經・方便品 六六頁

◇如來の滅度の後に、若し人あつて妙法華經の乃至一偈・一句を聞いて一念も隨喜せん者には、我亦阿耨多羅三藐三菩提の記を與え授く。若し復人あつて妙法華經の乃至一偈を受持・讀誦し解説・書寫し、此の經卷に於て敬い視ること佛の如くにして、種種に華・香・瓔珞・抹香・塗香・燒香・繪蓋・幢幡・衣服・伎樂を供養し、乃至合掌恭敬せん。藥王當に知るべし。是の諸人等は已に曾て十萬億の佛を供養し、諸佛の所に於て大願を成就して、衆生を愍むが故に此の人間に生ずるなり。

妙法蓮華經・法師品 二〇二頁

◇人あつて渴乏して水を須いんとして、彼の高原に於て穿鑿して之を求むるに、猶お乾ける土を見ては水尙お遠しと知る。功を施すこと已まずして、轉た濕える土を見、遂に漸く泥に至りぬれば、其の心決定して水必ず近しと知らんが如く、菩薩も亦復是の如し。若し是の法華經を未だ聞かず、未だ解せず、未だ修習すること能わずんば、當に知るべし、是の人は阿耨多羅三藐三菩提を去ること尙お遠し。若し聞解し思惟し修習することを得ば、必ず阿耨多羅三藐三菩提

提だいに近ちかづくことを得えたりと知しれ。

妙法蓮華經・法師品 二〇八頁

◇善ぜん男子なんし・善ぜん女人にょにんあつて、如にょ來らいの滅めつ後ごに四しゆ衆しゆの爲ために是この法ほ華け經きやうを説とかんと欲ほつせば、云い何かにしてか説とくべき。是この善ぜん男子なんし・善ぜん女人にょにんは、如にょ來らいの室しつに入り、如にょ來らいの衣ころもを著き、如にょ來らいの座ざに坐ざして、爾しやうして乃いまし四しゆ衆しゆの爲ために廣ひろく斯この經きやうを説とくべし。如にょ來らいの室しつとは一切さいしゆ衆じやう生なの中なかの大だい慈じ悲ひ心しん是これなり。如にょ來らいの衣ころもとは柔じやう和わ忍にん辱じやくの心しん是これなり。如にょ來らいの座ざとは一切さい法ほう空くう是これなり。是この中なかに安あん住じやうして、然しやうして後のちに不ふ懈け怠だいの心しんを以もつて、諸もろの菩ぼ薩ざつ及および四しゆ衆しゆの爲ために、廣ひろく是この法ほ華け經きやうを説とくべし。

妙法蓮華經・法師品 二〇九頁

◇法ほうの爲ための故ゆえに國こく位いを捨すてて政まつりごとを太たい子しに委まかせ、鼓つづみを擊うつて四ほう方せんりやうに宣せん令りやうして法ほうを求もとめき。誰たれか能よく我わが爲ために大だい乘じやうを説とかんと者ものなる。我われ當まさに身み終おわるまで供く給きやうし走そう使しすべし。時ときに仙せん人にんあり、來きたつて王おうに白もうして言もうさく、我われ大だい乘じやうを有もつてり、妙みやう法ほう蓮れん華げ經きやうと名な付つたてまつる。若もし我われに違たがわらずんば、當まさに爲ために宣せん説ぜつすべし。王おう、仙せんの言ごんごを聞きいて歡かん喜ぎ踊ゆ躍やくし、即すおち仙せん人にんに隨じつて所しよ須しゆを供く給きやうし、果こを採とり、水みづを汲くみ、薪たぎを拾ひろい、食じきを設もうけ、乃ないし身みを以もつて牀じやう座ざと作なせしに、身しん心じん倦ものうきことなかりき。

妙法蓮華經・提婆達多品 二二六頁

◇我身命を愛せず、但無上道を惜む。

妙法蓮華經・勸持品 二四〇頁

◇世は皆牢固ならざること、水沫・泡・焰の如し。汝等咸く應當に、疾く厭離の心を生ずべし。

妙法蓮華經・隨喜功德品 三〇一頁

◇若し講法の處に於て、人を勸めて坐して經を聽かしめん。是の福の因縁をもつて、釋梵轉輪の座を得ん。何に況んや一心に聽き、其の義趣を解説し、説の如く修行せんをや、其の福限るべからず。

妙法蓮華經・隨喜功德品 三〇二頁

◇佛の滅後、法盡きなんと欲せし時、一りの菩薩あり、常不輕と名く。時に諸の四衆、法に計著せり。不輕菩薩、其の所に往き到つて、而も之に語つて言わく。我汝を輕しめず。汝等道を行じて、皆當に作佛すべしと。諸人聞き已つて、輕毀罵詈せしに、不輕菩薩、能く之を忍受しき。其の罪畢え已つて、命終の時に臨んで、此の經を聞くことを得て、六根清淨なり。

妙法蓮華經・常不輕菩薩品 三二三頁

◇爾の時に千世界微塵等の菩薩摩訶薩の地より涌出せる者、皆佛前に於て一心に合掌し尊顔を

瞻仰して、佛に白して言さく、世尊、我等佛の滅後、世尊分身所在の國土、滅度の處に於て、當に廣く此の經を説くべし。所以は何ん、我等も亦自らは眞淨の大法を得て、受持・讀誦し、解説・書寫して、之を供養せんと欲す。

妙法蓮華經・如來神力品 三二六頁

◇如來の滅後に於て、應當に一心に受持・讀誦し、解説・書寫し、説の如く修行すべし。所在の國土に、若しは受持・讀誦し、解説・書寫し、説の如く修行し、若しは經卷所住の處あらん。若しは園中に於ても、若しは林中に於ても、若しは樹下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白衣の舍に於ても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷・曠野に於ても、是の中に皆塔を起てて供養すべし。

妙法蓮華經・如來神力品 三二八頁

◇諸の菩薩摩訶薩、佛の是の説を作したもうを聞き已つて、皆大歡喜其の身に徧滿して、益恭敬を加え躬を曲げ頭を低れ、合掌して佛に向いたてまつりて、俱に聲を發して言さく、世尊の勅の如く當に具さに奉行すべし。唯然、世尊、願わくは慮有さざれ。

妙法蓮華經・囑累品 三三三頁

## ◆安立大法尼

出世しゅうせの意義いぎ 我われら救済きうさい会員かいじんは、宝たからの山やまに到いたるためにまづ橋はしを作りつくりました。

第一だい、精出せいだして働はたらきましよう。段々だんだん世よの中なかが複雑ふくざつになつてくるにしたがつて、真面目まじめさがなくなり、怠なまけ者ものが増ふえてきます。今いまの人間にんげんは、働はたらくことに対してたい苦痛くつうであるが如ごとく考かんえる者ものさえあります。我々われわれ会員かいじんは、そういふ考かんえは全然ぜんぜんやめにして、働はたらくことは楽たのしみだ、といふ考かんえ方かたに改あらためましよう。お互たがいの目的もくてきを忘わすれず、お互たがいの仕事しごとに興味しゆみをもつて、身みを惜おしましなす働はたらきましよう。

第二だい、健康けんこうを害がいしないようにしましよう。暴飲ぼういん暴食ぼうじよくを慎つとみ、飲酒いんしゆに当あたりても、節酒せつしゆして、乱らんに及およばざるよう心掛こころがけましよう。次つぎに、早寝はやね・早起はやおきをしましよう。明快めいかいなる頭腦ずのうは、早起はやおきによつて期待きたいせられます。早朝そうちようの清爽せいそうさは、一日いちにちの快活かいかつなる気分きぶんを保たもたしめるのです。早起はやおきして、無用むよう無益むえきの惰眠だみんの時間じかんを有益ゆうえきにすることは、将来しやうらいに富ふ者しゃ・智ち者しゃ・健康けんこう者しゃとなるべき根源げんたるを忘わすれてはなりません。

第三だい、祖先そせんの恩おんを忘わすれぬようにしましよう。我々われわれは祖先そせんの分身ぶんしんであります。我々われわれの斯かくして暮くらすについては、すべてこれ、祖先そせんの苦心くしんの賜物たまものなることを忘わすれてはなりません。常に祖先そせんのため、一心しんに妙法蓮華經みょうほうれんげきやうを唱となえましよう。故人こじんはたとえ、地獄ぢごく・餓鬼がき・畜生道ちくしやうどうにあるとも、妙法みょうほうの功德とくどくにて、下界げかいの苦惱くのうから逃のがれられます。これが、祖先そせんに對たいする第一だいの孝養こうようです。

よく世間では死去した人々が草葉の陰から守ってくださると言いますが、草葉の陰には何か  
いましよう。虫や、蛇や、蛙でしよう。この境界にあつて、どうして守護がでましよう。極  
楽には草など一本もありません。守護して頂く方は諸仏善神です。まず諸仏善神に守護して頂  
かなくては、何事もできません。

始祖・御法話集 四頁

## ◆宗玄大徳

**六波羅蜜** 私(わたくし)が団員(だんいん)諸君(しよくん)と共に修養(しゆやう)の指針(ししん)としてゐる六波羅蜜(はらみつ)は、佛法(ぶつぽう)の善行(ぜんぎやう)の基(もと)であります。  
この六波羅蜜(はらみつ)こそ、菩薩(ぼさつ)の行(わこ)なつてゆくべき道(みち)であります。仏教徒(ぶつぎやう)の悉(ことごと)くが行(きやう)すべき修養法(しゆやうほう)は、  
この六波羅蜜(はらみつ)であります。六波羅蜜(はらみつ)を完全(かんぜん)に実行(じつこう)することに因(よ)つて人格(じんかく)は向上(こうじやう)し、幸福(こうふ)の日(ひ)を  
迎(むか)え、健全(けんぜん)なる心身(しんしん)の持主(もぢ)となる(な)る(こと)ができるのであります。

六波羅蜜(はらみつ)を完全(かんぜん)に実行(じつこう)することを「六度(ど)万行(まんぎやう)具足(ぐそく)」と申(まう)します。六度(ど)を具足(ぐそく)することを妙法(みまほう)  
蓮華經(れんげきやう)と名付(なづ)け、インド(いんど)の言葉(ことば)では薩達磨(さつだま)分陀利(ぶんだり)伽蘇(がそ)多攬(たらん)と言(い)うのであります。すなわち、妙  
法蓮華經(ほうれんげきやう)は仏教(ぶつぎやう)の神髓(しんすい)であり、処世(じよせい)の重大(じうだい)なる善行(ぜんぎやう)の基(もと)であることが判(わか)ります。

法華經(ほけきやう)が何故尊(なにげえうと)いかと申(まう)せば、この善行(ぜんぎやう)を実行(じつこう)するに於(お)いての实行法(じつこうほう)が完全(かんぜん)に説(と)き尽く(つ)され、  
いかなることが善(ぜん)であるか、いかなることが悪(あく)であるかを明瞭(めいりやう)に説(と)き示(し)め、いかなる悪人(あくにん)も罪(ざい)  
人も、一度(たび)この經(きやう)を聞(き)いて修養(しゆやう)すれば最上(さいじやう)の人格者(じんかくしや)と成(な)り得(う)るとい(い)う甚妙(じんみまう)の教法(きやうほう)、諸仏(しよぶつ)の眼目(がんもく)

であるからであります。

村上先生御法話集(一) 一九七頁

開・示・悟・入の事 安立大法尼が大正十五年頃、法華經講習会にて講習生に問いかけられたことがありました。

「法華經方便品の中に『開・示・悟・入』ということがあることをご存知でしょう。『諸佛世尊は、衆生をして佛知見を開かしめ清淨なることを得せしめんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生に佛知見を示さんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生をして佛知見を悟らしめんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生をして佛知見の道に入らしめんと欲するが故に、世に出現したもう。舍利弗、是れを諸佛は唯一大事の因縁を以ての故に、世に出現したもうと爲く』というお言葉です。さて、この一大事因縁は誰がなすべきことでしょうか、誰も直ちに答える者がありませんでしたが、しばらくしてようやくある一人が、

「これは諸仏とあるから、釈尊をはじめ十方の諸仏のなさることでしょう」

と答えました。するともう一人の講習生が、

「これは末法の大導師、上行・無辺行・淨行・安立行の四大菩薩のお役目でしょう」

と答えました。また、

「それは上行菩薩でしょう」

と答える人もありましたが、この時安立大法尼は、

「皆さん、ずいぶん方角が違っていますね。それではもう一つ質問致しましょう。法華経は諸仏の眼目とありますが、誰に一番必要なものでしょう」

と問いかけられました。これにも即答する者はありませんでした。それをご覧になられ、「このことが答えられぬようでは『開・示・悟・入』はわからないでしょう。法華経は諸仏の眼目ではありませんが、仏には必要ありません。何故ならば、法華経は仏になる修行方法の書であるものです。その修行方法を説の如く修行して既に仏になった方には必要ないのです。未だ煩惱を断ぜざる者、未だ完全なる修養ができずして、財宝等、世の楽しみ事に執着して正道を誤る者、未だ悩みに束縛されて地獄・餓鬼・畜生の苦しみに遭える者のために必要欠くべからざるみ教えであることをよく知らなくてはなりません。

世の中は間違いが多いので致し方ないかも知れませんが、法華経を誦することが仏の供養だと思っていられる人がずいぶんたくさんおられます。単に法華経を誦しさえすればいいのではありません。誦することによって、自分の魂に法華経を理解させねばなりません。そのような読み方をしなければならぬのです。一分八間という諺にもたとえられますように、自分分は極楽へ行くつもりであったのが、実は地獄であるという違いともなりかねません。いつか早大教授のある先生が『ぼくら同好者で観音会を組織しているが、ある会合の折りに、神通

力というものはあるものか、ないものか、という話が出た。そこでいろいろ意見を戦わせたが、結局法華經の一字一句は眞実の言葉であるから、ないものではなからう。しかし、未だ神通力を得た者が不在から確かなことは何もわからない』と話されたことがあります。如何に法華經を研究しても、見方が違ふとその眞義が判然としないのであります。

鏡は、姿を写すといふことについては何の偽りもなく写すものであります。若し一、鏡の裏に向かつていては、何万年の歲月を経ても自分の姿は写らないのであります。それと同様であらうと考えます。法華經の開・示・悟・入も、仏のなされる仕事だとか、目的と思つていたら、幾万年過ぎても法華經の意味はわかりません。この一大事は、私も皆さんも、共になさねばならぬことで、自分の修養すべき事柄と思つて読誦せねばならぬのです」と申されました。見方を違えてはいくら法華經の解説に秀でていても、価値はないのであります。

村上先生御法話集(二) 一一九頁

五道諸有 五道とは「地獄・餓鬼・畜生・人・天」を言う。修羅を加えると六道になるが、修羅を地獄におさめた。諸有とは、あらゆるものみな、といふこと。

宙の究極的原理と見なされた『ブラフマン』の漢訳語)。転輪 転輪聖王(正義をもつて世界を治める王)。

釋梵轉輪 釈 積 積尊。梵 梵天(古代インド哲学で宇

※「如説修行・御書」は次回に紹介します。

# ふじのはの記

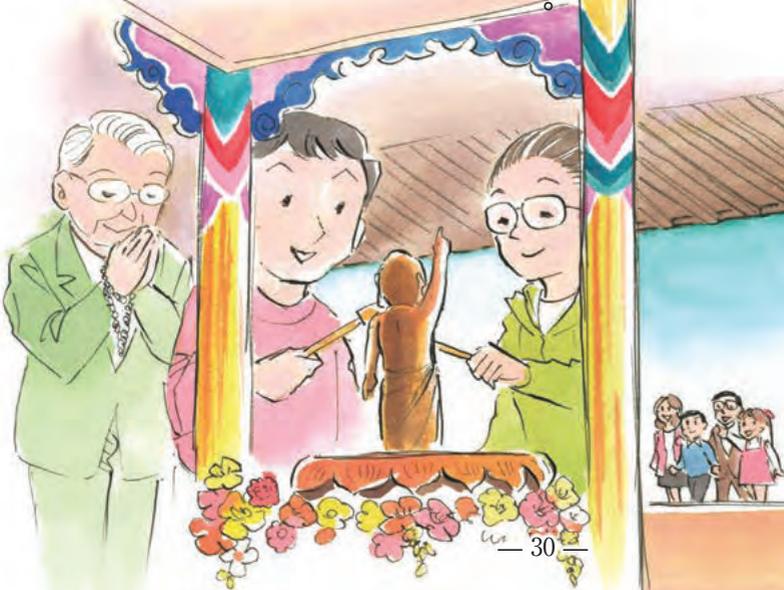
## 三界皆苦 我当度之

「お釈迦さまがお花の中に立っているよ」

子どもが興味深そうに花御堂の中の誕生仏を見ています。「花まつりはお釈迦さまの誕生祝いなんだ。キリストの誕生をお祝いするクリスマスと同じだね」

「右手を挙げているのはなぜなの？」

「お釈迦さまは生まれてすぐ東西南北の四方にそれぞれ7歩歩み、右手で天を、左手で地を指して、『天上天下唯我独尊 三界皆苦 我当度之』（この世で私が最も尊い。世の中は苦しみが多いけれども、私が全部救います）とお



唱えになったという言い伝えがあるからだよ」

「では、お釈迦さまに甘茶をかけるのはどうして？」

「お釈迦さまがお生まれになった時に、九頭の龍が天から清浄の水を注いで産湯を使わせたとか、甘露の雨が降り注いだというお話がもとになっているんだ。そのほかにも不思議な出来事がたくさんあるんだよ」

「どんなこと？」

「普通なら咲く時期ではない花がいつせいに開き、空は晴れているのに雷鳴が轟き、静かに雨が降り注いだ。天上からは白檀の香りを含んだそよ風が吹き、はるか上空には美しい歌声が流れている。世界中の闇が消えて無量の光が全世界に広がり、生きとし生けるすべてのものが、喜びと快さに満たされて卑しい感情はすべて消え去り、病む者は治り、酔った者は覚め、迷った者は悟り、体の不自由な者はその不自由がなくなり、地獄の底にいる罪人も苦しみを免



れ、動物たちも食いあうという欲を離れた」

「まさにこの世界の救世主の誕生だね」

「お上人さまは『これを単に不思議な出来事とみるのではなく、花まつりに参詣し、仏さまの教えを聞いて実行していくと、これに似た功德がいただけます』とおっしゃって  
いたよ」

「僕たちにそんな奇跡が起こせるとは思えないよ」

「始祖・杉山辰子先生は、『お釈迦さまのおっしゃること、  
經典に書かれてあることを、〴〵仏さまがおやりになること  
と思っではいけません。真似でもよいから、自分が実行す  
ることが大事です』とおっしゃったそうよ」と妻。

〴〵今此の三界は皆是れ我が有なり 其の中の衆生は悉く是  
れ吾が子なり 而も今此の処は諸の患難多し 唯我一人の  
み能く救護を為す (法華経・譬喩品)



「みんなが仏さまの子どもで、仏さまと同じような価値ある存在だ、ということだね。だから仏さまと同じようにまわりの人に喜びを与える菩薩行・三徳の実行を心掛けよう。誰にでも親切にして、少しでも苦しんでいる人の力になるようにしようね」

「仏さまの子どもとして、恥じない行動をとるということだね」

「そうね、そういう気持ちでお釈迦さまに甘茶をかけに行きましよう」

「うん、みんなに親切にします。ってお釈迦さまにお誓いしてくるよ」

私たちも、日常それぞれの立場で、何らかの形で『三界皆苦 我当度之』を実行いたしましょう。



# 読者の声

## 私の罪障・悪因消滅のはじまり

笠原 潔（高槻支院）

平成16年6月21日は支院の講日で、お勤めの後に体験談をお話しさせていただきました。その最中、周りの状況は見えているのに音だけが消えて、何も聞こえなくなったのです。痛みも苦痛も感じない中で、音の無い世界が広がりました。

私は頭を垂れて、静かにお題目を心で唱えました。すると音が徐々に聞こえるようになり、何とかお話を終えることができました。しかし何かがおかしいと、私は徐々に体調の不安を感じ始めていました。

ひよっとすると、これは諸天善神が何かをお知らせくださったのではないだろうか

2日後、病院の脳外科で診察を受けました。「脳に影がある」とのことです、すぐに妻が呼ばれました。「くも膜下出血」であることが判明したため、そのまま救命救急センターに運ばれて、即手術となりました。妻は関哉法尼に相談し、すぐに日達上人さま（当時の山首上人）に連絡していただき、お徳をお願いしてくれました。そのお陰で手術は無事に終わりました。

退院後は特に支障もなく生活できましたが、手術後からが試練の始まりでした。まず、手術の翌日に義母が亡くなり、半年後には施設にいた実母が亡くなりました。さらに、長男が仕事

先で事故のために亡くなりました。その報告を受けた時には、頭の中が真っ白になりました。遠方の仕事先に向いた私は、現地で葬儀を済ませ、長男はお骨になって帰ってきました。そんな中でも何とか気持ち奮い立たせ、対処できたことは、法音寺のお徳に守護されているお陰と思いました。

日達上人さまは『法音』誌の御講演抄で次のようにおっしゃっています。

「法華経を信仰していれば悪いことが起こらないというのではありません。誰でも罪障がある以上、悪いことはやはり起こるのです。その時いかに対処していくか、それが肝心です」

「過去に大きな罪障があり、その結果として現在苦しんでいるとしても、これから作っていく縁を善くしていけば何も恐れる必要はありません。これから先、慈悲・至誠・堪忍を実行して善い因縁をどんどん積み重ねていくのです」

私には力強いお言葉です。悪因・罪障を消滅する道は、この教えしかありません。誰でも罪障があるかぎり、必ずどこかで出てくると教えていただいております。これからも三徳の実行で功徳を積み、善い因縁を積み重ね、今世で罪障を少しでも減らしていきたいと思っています。

あるは罪なきは功徳と今ぞ知り

やがてむくいの善き種ぞまく

《二祖・宗玄大徳御詠》





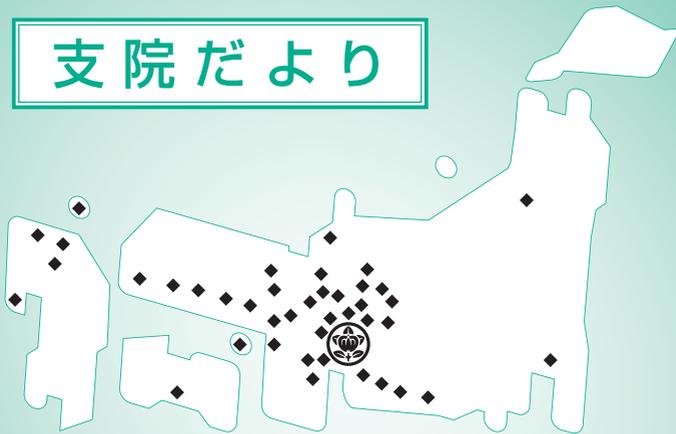
# のりのりとも西に東に 転法輪



『汝等如來の滅後に於て、應當に一心に受持・讀誦・解説・書寫して、説の如く修行すべし。所在の國土に、若しは受持・讀誦・解説・書寫して、説の如く修行することあらん。若しは經卷所住の處、若しは園の中に於ても、若しは林中に於ても、若しは樹の下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷・曠野にても、是の中に皆塔を起てて供養すべし。所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。諸佛此に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、諸佛此に於て法輪を轉じ、諸佛此に於て般涅槃したもう』

〔妙法蓮華經・如來神力品第二十一〕

## 支院だより



## 優しく親切な言葉掛けを行います

春の気配を感じつつも寒さの残る2月19日、各支院の信教師代議員の皆さんが全国から本山に集まり、平成29年度の総会が開催されました。

開会にあたり、山首上人さまから「信教師の皆さんは、参詣されている方や新たに縁を結んでいただいた方、そして縁ある人々に優しく親切に御法を説いてください」と励ましのお言葉をいただきました。

河村幹事長は、「信教師が一番大切な広宣流布に、より一層励まなければいけません。今日より心新たに、一層広宣流布に邁進していきましょう」と述べられました。

初めに平成28年度の事業報告と決算報告、引き続き平成29年度の事業計画案と予算案の説明があり、それぞれ承認されました。また欠員役員の選出について提案があり、審議の結果、大阪

支院の片山代議員が承認され、2年間の役員として活躍していただくことになりました。

議事終了後、本山からの助成金に係わる平成28年度の事業報告と平成29年度の事業計画、予算について説明がありました。

続いて『法音』及び『信教師会報第48号』に掲載する信教師体験談の募集の説明があり、信教師としての日頃の活動の中で得た体験談の原稿を名古屋地区と13支院から募集することになりました。

その後、第18回信教師セミナー（10月28日・29日）の案内があり、信教師・準教師の参加を奨励するようには話されました。

また、御報恩納経百万巻達成のため、幹事長より、三徳開教110年・顕修院日達上人第7回忌に向けて、各信教

師それぞれ目標を立てて取り組んでほしいと述べられました。

会員名簿の更新、弔電等の手続きの説明の後、「妙法宣布」の実践について、新機軸の取り組みが各支院より発表されました。

○「土曜、日曜にあたる講日を昼に開催し、夜の座談会を月1回は昼に支院で開催するようにした」

○「各行事の担当や送迎当番を若い人にお願している」

○「節分を講日と分けて別の日（日曜日）に、また物故者法要も講日とは別に開催するようにした」

○「他行事と合わせて行っていた御法推進大会を、本山講師がお見えにならない講日に開催するようにした」

○「写経会を新たに開催した。参加者は平均10〜15名」

○「月1回お題目会を始めた」

○「これまで休みになっていた法座を支院で開催するようにした」

○「支院法座をお昼に開催した」

○「気軽に支院に来ていただけるよう、

地域の人へのお声掛けを行っている」  
○「私の誓願項目を増やし、選択してもらおうようにした」

○「『法音』の内容をわかりやすく整理するため索引集の作成を進めている」  
○「新年会をもちつき大会にした。また、七五三祈願会の対象者を就学前までに広げた」

○「年回忌の通知を支院講日に読み上げ、回向していただくようにした」

○「敬老会の開催や信教師の体験発表を他支院と合同で行った」

○「七五三祈願会を始めた。また、フェイスブックを立ち上げた」

○「写経会を平日から日曜日に変更し、その後に墓参を行っている」

○「青年会・子ども会合同で竹とんぼ作り、バームクーヘン作りを行った」

○「写経会のお経（お題目）のテープを流すようにした」

○「施本の輪読会を始めた。現在『安立行』を読ませていただいている」

代議員の皆さんはそれぞれの報告を聞いて、支院ではどのように取り組ん

でいこうかと真剣に考えておられました。

最後に、弓削多事務長より「ホームページを信仰のない方でもわかりやすい形に刷新しました」とご報告がありました。法音寺の動画を観られるようになり、『一日一言』もフェイスブッ

### 大阪支院「山首上人さま」親修・泰岳院日芳上人報恩会

## 心を引き締めてご法話をお聞きしました

春とは名ばかりの寒さですが、日足は確実に伸びています。2月23日の講日には、山首上人さまにご親修いただき、皆さん心弾む喜びとともにお迎えいたしました。午後2時より、泰岳院日芳上人（鈴木慈学上人）の御報恩法要が厳修され参詣者ご一同、感謝の香を手向けられました。

法要後、古山上人は、慈学上人の『しあわせへの道』より、仏説箭喻經の毒矢の喩えについて「罪障が出た時に、何故？と慌てるのではなく、普段から家の中をきれいに掃除する、嫁

クで毎日投稿されています。

午後3時の予定時間を過ぎ、各支院の代議員の皆さんは、山首上人さまからいただいたお言葉に胸に、縁ある方々に優しく親切な言葉掛けを行い、布教活動に一層励む決意で帰途に就かれました。（通信員 鈴木幸男）

姑は仲良くする等、家庭の中の平和を心掛けることが大切ですよ」とお話しくださいました。

山首上人さまはご法話にて、「どんなことがあっても上機嫌で、プラス思考で過ごしましょう」とアメリカの詩人、サミュエル・ウルマンの『青春』という詩を紹介してくださいました。

「明るい考えの人は若く、暗い考えの人は早く老けていきます」と先人達の例をあげ、プラス思考が肉体や脳の活性化につながることをご教示くださり、脳を鍛える指まわしの方法も教えてく

ださいました。そして最後には、「感謝の心と、三徳の日々の実践が一番大切です」と結ばれ、心を引き締めてお聞きしました。

#### 四日市支院Ⅱ子ども会ひな祭り会

## 〳おいしい！〳笑顔がこぼれました

2月25日正午より、毎年恒例の子ども会のひな祭り会が行われました。

この日、小学校は土曜授業で、子ども達は学校から帰ってすぐにお寺に集合しました。まずはお昼ご飯をといることで、お勝手の方が子ども達のために作ってくださったちらし寿司やお吸



四日市支院の子ども会

特別加持を受けられた皆さんは境内で、うどんのご供養をいただき、足ども軽く帰途に就かれました。

(通信員 坂井信子)

い物をおいしくいただき、お腹いっぱいになった後、ひな祭り会が始まりました。

最初にご宝前でお参りがありました。何度もお寺に来ている子も初めて来たお友達も、みんな一緒に「南無妙法蓮華経」と元気な声でお唱えしました。お参りの後、お上人からご挨拶があり、ひな祭りは五節句の一つで、3月3日は昔から子ども達の健康を願い、成長をお祝いする日であることを子ども達にわかりやすくお話しくださいました。

「お父さん、お母さんの言うことをよく聞いて、お友達と仲良くするなど、自分のできることで善いことをする、

『お徳を積む』ことが大切です」お上人のお話を、子ども達は真剣に聞いていました。

その後は楽しみにしていた恒例のお菓子作り、今年は『いちご大福』です。青年会が作り方の見本を見せると、子ども達は興味津々で覗き込みます。カセットコンロの火を使い、お鍋で餅粉を炊く工程は大人の腕の見せどころですが、苺を白あんで包み、ほど良い柔らかさになったお餅を巻いて丸めるのは子ども達のお楽しみ。みんなでワイワイおしゃべりしながらのお菓子作りはとっても楽しい体験で、顔が粉だらけになった頃、いろいろな大きさや形のいちご大福ができあがりました。早速できたてのいちご大福を頬張る子ども達。「おいしい〜」と思わず笑顔がこぼれていました。最後は子ども達や付き添いの親御さん、みんなと一緒に後片づけをして、ひな祭り会は終わりました。

子ども達は笑顔いっぱいでご供養のお菓子とひなあられを戴き、いちご大

福を家族へのお土産に大事に持って帰っていききました。今年も楽しく無事にひな祭り会ができたのも、山首上人さ

## 豊川支院Ⅱ信行会

# 心が安らぎ、爽快感に浸りました

2月26日午前9時より、孝祥院において信行会が執り行われました。

先導を務める信教師の引金の一打でお題目発声。白い道場着の参加者28名は、凛とした姿で本堂内陣に上がり、開会の勤行に臨まれました。

### ◎会の次第

- ・ 9時～勤行（三宅上人導師・信教師出仕）
- ・ 9時30分～ご法話Ⅱ「三宅上人世界の流れが変わっている『グロバルからナシヨナリズムへ』」
- ・ 10時20分～ご法話Ⅱ「西春・渡辺上人自己満足の祈願でなく、法座に一人でも多く参詣していただけるようにと、納経でお誓い。2年過ぎ結果が表れず、納経を止めようかとあきらめかけた頃、

まのお徳のお陰と、ご奉仕の方々と青年会で喜び合い、感謝申し上げます。  
(通信員 服部薫 代 祖父江治子)

思わぬ展開が広がっていったと、信仰のあるべき姿勢をお説きくださいました。

・ 11時10分～如来神力品第二十一・読経練習（信教師2名が講師）

日頃馴染みのない経文に戸惑いましたが、読み方だけでなく、私達に広宣流布の使命があることを、経文の解説から教えていただきました。

・ 11時40分～終勤（信教師出仕）  
唱題行で心身が安らぎ、あらゆる意味の喧騒が洗い流された、そんな爽快感

## 青少年育成委員会Ⅱ育成合同会議

# 心のこもったメッセージをいただきました

2月26日、各地区から育成部長・青

年会・子ども会（母子会）の代表者が

感に浸りました。

○「世界の情勢がわかった気がします。会社で役に立つかも」

○「ご法話に感動して涙が出ました。無心で、純真にお徳積みをしなればいけませんね」

支院の窓から見える淡紅色の梅の花はすでに満開。帰途に就かれる皆さまを、梅の香りをのせた暖かな春風が見送っていました。(通信員 鈴木康昭)



豊川支院の信行会

集まり、開山堂において育成合同会議が行われました。

勤行の後、寺田委員長から「開教110年に向けてさらに実践を積み、部に『徳』をつけていきましょう」と決意が表明されました。続いて、弓削多委員より「ネット配信を活用することで信仰のない方々へ教えを届け、広宣流布に励みましょう。法音寺の社会的使命を意識して信仰に役立ててください」とお聞きし、三宅持温上人からは「育成委員会は、ここに集まるリーダーの皆さんとともに縁ある方の喜びに関わる行動を起こしていく、そんな集団でありたいと思います」とお話をいただきました。

午後の部ではグループに分かれて討議が行われ、昨年の合同会議から1年の「小さな成功体験・実践体験」について話し合いました。普段聞くことができない地区の活動や考えを知ることができ、特に若いリーダーにとって有意義な時間となりました。

また、プロ野球の大谷翔平選手の目

標達成シートを参考に「今日から始める会員増加目標シート」を作成しました。例えば、会員増加のための「次につながる企画」を考えたとします。「なぜ、この企画にするのか?」「その企画でどのように喜んでいただくのか」といった具合に細かく考えていきます。作成した「会員増加目標シート」を持ち帰り、各支院（布教所）の役員さんとリーダーの皆さんが話し合い、目標シートを完成し、実践に移していく運びとなりました。

次に、育成企画委員より「来年の開教110年の御開山会に向けて、育成奉仕者110人を目標に掲げました。

上野支院 犬飼妙淳法尼を偲ぶ会

感謝で周りを明るくしていきます

3月1日、犬飼妙淳法尼を偲ぶ会が開催されました。

午後8時、橋本上人導師のもと御報恩の法要が執り行われ、如来神力品の読経が本堂に響き渡る中、檀信徒の皆

「一人ひとりのプラス1活動」にご協力ください」という心のこもったメッセージが発信されました。

さらに、昨年好評だった「介護実習体験学習（7月28日～7月30日開催予定）」、そして法音寺檀信徒が全国で同じ日に日本を美しくして社会貢献を行う「全山一斉清掃奉仕（10月22日開催予定）」の案内がありました。

参加者の学ぶ姿勢、取り組み姿勢はどれもすばらしく、率先して後片づけまでする姿に感動しました。皆さまのお陰で、次につながる有意義な一日となりました。

（通信員 松村純美）

さまはそれぞれに、妙淳法尼の生前のみ教えを思い起こし、感謝を込めてお焼香されました。

法要後、橋本上人は『一日一言』を引用し「教えを守って精進しています

か？教えていただいたことを常に心の芯に、自分の生活に生かすことこそ御報恩供養になります」とご法話くださいました。

続いて大庭上人は『法音』3月号の山首上人さまご法話を引用し、「『ありがとう』を上手に使い、頼み上手になること、自ら手本を示し、次世代に

親孝行の徳を積んでもらうよう導くことが、幸せの土台を作ることにになります」とお話しくださいました。早くも春のお彼岸が目前です、ご先祖さまに感謝、次世代にも感謝で周りを明るくしていきたいと、思いを新たにいたしました。

(通信員 廣出寛一)

## 笑顔の理由がわかりました

坂支院Ⅱ山首上人さま「親修・春季彼岸会」

3月5日午前11時より、山首上人さま大導師のもと春季彼岸会の法要が奉行されました。

山首上人さまはこの日、3年半振りに当支院にお越しくださいました。

ご親修の報を聞いた時から皆さん、緊張しながらも胸をワクワクさせながらお待ちしておりました。

法要終了後、三宅上人は「夫婦喧嘩はお互い様です。自分が変わって初めて相手が変わっていくのですから、堪忍をして相手に求めすぎないことが大

切です」とお話しくださいました。

山首上人さまは、「感謝は究極のプラス思考です」とお話しされ、「他人の幸せを祈る『菩薩行』を考えるだけで脳が活性化し、自分も幸せになります。脳も使えば使うほど活発になり、何歳からでも鍛えることができます」とご教化くださいました。そして、脳のトレーニングには指回しが良いというところで、山首上人さまと一緒に楽しく指回しをしました。

その後、山首上人さまから特別加持

をしていただき、終了しました。

山首上人さまをお見送りした後、ご供養のお弁当をいただきながら雑談をしていると、今日初めてお参りされた方が「家族がお寺から帰って来るといつも笑顔になっている理由が、今日お寺に来て初めてわかりました。さらにお上人方のお顔を見てみると、とても優しそうなお顔に自分の心が穏やかになり、家でも怒らないようにしようと思えました。今日お寺に来てとても良かったです」とおっしゃいました。

皆さん口々に「今日来て良かった」「山首上人さまをこんな間近で拝見できて幸せだった」などと話されていてました。またある人は、「まさか山首上人さまと一緒に指回しができるなんて」と、本当にうれしそうなお様子でした。

今日は、山首上人さまにとっても大きなお徳をいただきました。

(通信員 笹原眞由美)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆



## 節分会

皆さんの笑顔が輝いていました!

東京支院Ⅱ山首上人さまご親修・節分会

## しだれ桜の如く、花火の如く

2月11日と言えば、建国記念の日であり支院の節分会です。東京地方の天気は晴れ。所によって福豆、時々お菓子、一時野菜やみかんが降る予想ですが総じて穏やかな一日になるようです。一方、西の地方では雪で荒れた天候となり、山首上人さまの乗られる新幹線の遅れが心配されましたが、無事にご到着されました。

節分会が始まり、内陣にずらりと並んだ厄除け祈祷を受ける方々に向かって、木剣の音の嵐が吹きます。耳を聳ると言いますが、目にもこたえます。強い響きについてつむってしまった目ももう一度、さらにつむってしまった目をな体に響く衝撃。これなら、厄という

厄もすべて退散するはずですよ。

休憩で氣力を蓄えられたお上人方が、本日何度目かのご登壇。久遠偈・陀羅尼・木剣の音。そして、山首上人さまのご発声で総まきが始まります。天井へ舞い上がり、舞い落ちる福豆やお菓子の数々は、まるでしだれ桜の如く、花火の如くで、うっとりしました。すべてが終わっても歓声と興奮の余

大垣支院Ⅱ節分会

## 「ちようだーい!」の大歓声!!

「再び冬將軍襲来!」とニュースでも流れる2月11日、恒例の節分会が行われました。

韻が続く本堂に、静かに座っておられる年配の女性がありました。何と、山首上人さまが『法音』2月号のご法話で紹介されていた後藤新平伯爵のお孫さんでした。ご自身はキリスト教にご縁を結ばれているのですが、法音寺の信者さんに誘われ、初めて足を運ばれたとのこと。お上人方の「お経の迫力には感動しました」と言われまです。〴〵朋あり遠方より来る。また楽しからずや〴〵を目の当たりにできた節分会でした。

(通信員 川合和美)

午前9時、雪化粧された支院に集まった奉仕者は、香村上人より「来て良かった。また行きたいと思っていただ

けるように皆さんを気持ち良くお迎えください」とのお言葉をいただきました。さらに運営委員長より、本日の日程の説明があり、「おもてなし、心配り、気配り、目配り、そして笑顔と感謝で三徳の実行に励んでください」と、励ましの言葉が述べられました。

午前11時30分頃から、昼食のうどん・コロッケ・混ぜご飯・コーヒーが振る舞われました。足元の悪い中、ご近所の方や信者さん、信者さんの知人・友人・ご家族がお見えになり、また、近隣の高齢者養護施設からも多くの方にお越しいただき、会場は大勢の人で賑わいました。外では雪が降り積もり、食事を終えた子ども達が雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりと、はしゃいでいます。

午後1時、いよいよ本堂にて豆まきです。参詣者でいっぱいの本堂は、外の寒さがウソのような熱気です。袴を着けた方々が続々と入場し、厄除け祈願を受けられ、ご宝前から左右に分かれて並びます。お上人の「福は内！」

のご発声の後、一斉に豆やお菓子がまかれ、本堂内は歓喜に満ちあふれました。

毎年恒例となった総供養でまかれる大きなビニールボールは今年も大人気で、「ちょうどいい！」の大きな歓声があちらこちらから巻き起こります。総供養の品が宙を舞うと、皆さんの手が一斉に天へと伸び、あつという間に豆まきは終了しました。

最後に運営委員長の「ハッスルされ、大声を上げ、大変健康に良い一日にな

## 京都支院 節分会

# 堂内は爆発寸前の熱気でした

2月11日、節分会開運厄除け祈願法要が執り行われました。

前夜から京都市内に雪が降り、節分会の開催が危ぶまれましたが、当日は道路にはかなりの雪が積もったものの、徐々に太陽も出てきて良いお天気となりました。

本堂に入ると、普段の講日の装いと

つたかと思えます」との言葉に、会場に笑いが起きました。

「また一年の祈願としてください」と結ばれて終了となり、満面の笑顔で皆さまお帰りになされました。

後片づけは、大勢の奉仕の方々のお陰で瞬く間に終了し、香村上人より感謝と労いのお言葉をいただきました。大寒波の中、大雪を免れて無事に行事を終えられたことに感謝し、帰路へ就きました。

(通信員 姫田拓男)

は違い、豆まきに來られる参詣者のためにすべての椅子が取り除かれスッカリ様変わりしていました。厨子の中におられる日蓮大聖人も節分会を待ちわびていらっしやるのか、ニッコリと微笑んでおられるように感じました。

昼頃になるとお参りの信者さんのほか、ご近所の方々も「去年、節分にお

参りに来て楽しかったので、今年も来ました！」と来院され、ご家族連れ、お友達連れと本堂はいろいろな方で満員となっていました。

午後1時前、厄除け祈願を受けられる方は袴を着用され、豆まきの枡を手に準備万端。そして、「南無妙法蓮華経」とうちわ太鼓の誘導で本堂に整列してお上人方のご登壇を待たれていました。

午後1時、定刻となり安藤上人導師のもと、節分祈願法要が始まりました。張り詰めた空気の中、リズムカルで力強いお経がご祈願を受けられる方の頭上に降り注ぎ、皆さん真剣なお顔で手を合わせておられました。そしてご祈願が終わると安藤順法上人の「福は内！」の大きな掛け声とともに一斉に豆まきが始まりました。堂内はたちまちに歓声が沸き上がり、爆発寸前の熱気でした。

豆まきが滞りなく終わると境内で、せんざいと甘酒のバザーがありました。本堂は活気と熱気でムンムンでしたが、

一歩外に出れば寒く、皆さん満面の笑みを浮かべながら、温かいせんざいと甘酒を召し上がっておられました。そして午後3時過ぎには、たくさんのお菓子や日用品・ぬいぐるみ等を手にして、喜んで帰っていかれました。きつとそれ以外の福徳もたくさんいただかれたことでしょう。

その後、一段落した所で、お上人方のご奉仕の方のためにご祈願、総まきをしてくださいました。皆さん童心に返ったような笑顔となり、賑やかで楽しいひと時に、疲れも吹き飛びました。後片づけも手分けして順調に進み、帰り支度も済んだ午後5時前には皆さん帰途に就かれました。

### 高槻支院 節分会

## たくさんの福をいただきました

2月11日、昨年とは打って変わって厳しい寒さの中、節分会が行われました。

1週間前から福豆の袋詰め作業が始

お寺を出て空を見上げると、止んでいた雪がまたちらほらと降ってきました。その雪を見て「昨夜はすぐ雪が降っていたのに節分の最中はお天気、帰る頃にはまた雪で……。やっぱり私達はお徳をいただいているんやね」と信者さんが言っておられました。本当にそのように思い、感謝の気持ちでいっぱいでした。

今日の節分会には、檀信徒の皆さま以外にもたくさんの方にお寺にお越しいただきました。このご縁を大切に、皆さまに喜んでいただけるように、三徳の実行に精進して参りたいと思います。

(通信員 牧野伸江)

まり、一般信者さんを含む大勢の方々のご奉仕、ご協力のお陰で準備万端整い、この日を迎えることができました。

午後1時30分より講日が始まり、岩

田上人導師のもと法要が厳修されました。

法要後、岩田上人は本日の『一日一言』を引用され、「人間の心は風船と同じで放っておくと段々しぼんでいくので、定期的にお寺にお参りし、お徳をいただいで心を万全の状態にしてください」とご法話くださいました。また島田知教上人は、節分会にちなんで「鬼の好きなものは、怒る人、貪る人、不平不満（愚痴）を言う人です。喜んで感謝し、仏さまに好かれるよう三徳を実行して、この一年をお過ごしください」とお話しくださいました。

この後、いよいよ皆さんお待ちかねの豆まきの開始です。うれしいことに、今年は厄除け祈願を受けられる方が昨年より増え、70名ほどになりました。また、お知り合いの方を初めてお寺に誘って来られた方もいらっしゃいました。

厄除け祈願は6組に分かれて行われました。お上人方による力強い読経の声に、心身ともに清められた祈願者は、

本堂中央に敷かれた赤い絨毯の上に交互に立ち並び、お上人の「福は内」の掛け声とともに一斉に豆まきをします。矢継ぎ早に繰り出される福豆・お菓子・飴玉の嵐に、本堂に陣取った老若男女は一斉に歓声を上げ、手を伸ばして福を受け止めようとします。

最後の総まきでは、光るおもちゃや靴下、ハンカチ、さらにはご宝前に供えられた果物までまかれ、喜びが最高

### 神戸支院Ⅱ節分会

## 御法の輪がますます広がりますように

2月11日午後2時より、講日に併せて節分会が盛大に行われました。

外は冷たい北風が吹いていましたが、本堂内は、ポカポカと春が来たような暖かさで明るさでした。そして、節分会を待ちわびて早くから来られた参詣の皆さんで本堂はあふれんばかりでした。今年は若い家族連れの方がたくさん参詣され、子ども達の明るい声が響きわたり、一層華やいだ印象でした。

潮に達したところで終了となりました。行事が終わった後の片づけは、岩田上人も先頭に立ち、子ども会の小さなお子さん達も一緒になって椅子を運び、掃除機をかけてくれたお陰で、あっという間に終えることができました。たくさんさんの福豆（お徳）を戴かれた皆さんは、きつと今年一年を無事過ごされることでしょう。

（通信員 新庄達吉）

法要後、大庭上人は山首上人さまの今月のお言葉Ⅱ「忘己」について、「自分を忘れて人に喜んでもらうこと。される方と受けてくださる方がいて施しになります。節分は今年一年、人に喜んでもらう決心をする日です」とお話しくださいました。

午後3時より、お待ちかねの豆まきが始まりました。厄除けの皆さんは、袴を着け、福豆の入った枡を持って、

真剣な面持ちで厄除け祈願を受けられた後、田中上人の「福は内」のご発声を合図に、本堂いっぱい詰めかけられた参詣の皆さんへと、四方八方から福豆の雨を降らせました。お餅・お菓子・チョコレート・おもちゃ・ミカンも宙を舞っていました。

大人も子どもも笑顔で歓声を上げ、夢中になって拾っている様子は、幸せいっぱい姿でした。

総まきでは、ご宝前にお供えされていた紅白餅やリンゴ・バナナ・伊予柑・お菓子・おもちゃ等が舞い、本堂内は一段と大きな歓声に包まれました。ご宝前のお供え物もすっかり無くなって、豆まきはお開きとなりました。

参詣の皆さんは、たくさんの福豆やお供え物を拾われ、大きなビニール袋を抱えて、大満足の様子でした。

豆まきの終了後、奉仕の方が作ってくださいだった、香ばしい焼餅入りのぜんざいをいただき、皆さん喜んで帰られました。

初めて節分会に参加された方や久し

ぶりに来られた方、そのご家族が、今回を機にご縁を深められますように、御法の輪がますます広がっていきまますようにお祈りしました。

### 郡上八幡支院 節分会

## お寺での奉仕は和気あいあいと楽しそう

穏やかな日だまりを目にすると、冷たい風の中にも春の訪れが感じられます。

お天気に恵まれた2月12日、恒例の節分会が今年も盛大に開催されました。

2週間ほど前から福豆や福袋等の準備が始まり、前日には本堂内、境内のさまざまな設営から粗供養の下ごしらえまで、多くの奉仕者の協力のもとに手際良く進められました。いつものことですが、皆さん和気あいあいと楽しそうにご奉仕されます。本堂にありがたいことです。

当日、午後1時30分より厄除け祈願の受付が始まりますと、堂内はたちまち立錫の余地もないほどに参詣者で埋

三先師・日達上人・山首上人さまのご加護を心から感謝いたしました。

(通信員 石田成子)

め尽くされました。

午後2時、熱気あふれる本堂に太鼓の音が響き、丁酉厄除けの祈願法要が始まりました。祈願は休憩を挿んで5回に分けて行われ、160名ほどの方が受けられました。

堂内には福豆はもちろん、菓子・食品・生活必需品までが飛び交い、最後の総まきで熱気は最高潮に。

「一度袴姿で手を合わせ、ご宝前で祈願を受けるとやめられなくなりましした」「知人に誘われて初めて来ましたが、何もかもが初体験でびっくりしました。来年もまた来ます」「3年連続で景品付きボールを拾いました。ラッキーです」などなど、皆さん満面の笑顔で話

していただきました。

境内では豚汁のご供養があり、堂内の熱気冷めやらぬまま、身も心もさらにはかほかと温まりました。

今日一日を無事に終え、本堂でお題目を唱える奉仕者のお顔には、安堵の

### 岡山支院Ⅱ山首上人さまご親修・節分会

## 笑顔いっぱい、袋いっぱい

立春を過ぎた2月12日午後2時より、山首上人さま大導師のもと節分会と、正順院妙恵法尼（皿田妙恵法尼）御祥月法要が行われました。

御報恩法要終了後、ご法話で梅田上人は「慈悲・至誠・堪忍の徳を積んで、周りの人を喜ばせましょう」とお話しくださいました。

山首上人さまは「プラス思考で人の幸せを願い、菩薩行を実行すれば、自分も幸せになります」とお話しくださいました。

その後、節分会が始まり、参詣者で埋め尽くされた本堂では厄除けを申し

表情と喜びの心があふれています。節分が終わると郡上にも春の足音が聞こえてきます。春の気配とともに、今日もお寺を通してたくさん喜びを集められたことに感謝し、支院を後にしました。  
（通信員 八代哲雄）

込まれた方々が袴を身にまとってご宝前に着座し、山首上人さまのご祈禱を受けられました。

### 坂支院Ⅱ節分会

## 一人でも多くの方へお裾分け

数日前からの大雪も止み、久し振りの青空にほっと胸をなでおろしてお寺に向かいました。

お寺に着くと、皆さんが心を込めて準備された枡が整然と並んでいました。お寺にいられた皆さんは、いつも以上の笑顔で挨拶をされていました。

いよいよ豆まきの始まりです。厄除けを受けられた方々が両側に分かれて、山首上人さまの「福は内、福は内」のご発声とともに福豆やお菓子などをまかれ、本堂は、それを拾う人で大混雑。そんな中、ご祈禱は数回行われました。最後にはご宝前のお供えもまかれ、皆さん喜びに満ちた笑顔で、袋をいっぱいにしておられました。

数日前より準備してくださった皆さんに感謝し、三徳実行をお誓いした一日となりました。

（通信員 木村彰保 代 赤松伸夫）

2月12日午前11時から、三宅上人導師のもと節分会が行われました。

法要終了後、三宅上人は「腹の鬼を可愛がらないようにしましょう」とお話しくださいました。続いて、三宅持温上人より「以前、山首上人さまが荒行中に『今日一日』の心が支えになっ

たと言われましたが、今日一日、何を第一に考えるかが大切です」とお話しいただきました。

その後、袴と袴に着替えた方々がご宝前に並び、続いてお上人方が入場され、豆まきが始まりました。

お上人方の「福は内・福は内」のご発声を合図に皆さん、手にした枡から一斉に豆をまいていきます。拾う人もとびつきの笑顔で手を大きく広げ、一生懸命に拾っていきます。拾った袋の大きさを目を輝かせながら比べ、喜び合っておられました。

## 田川支院Ⅱ節分会

# お題目を唱え、心配する心で信心します

2月12日午後1時より二祖・弘教院殿宗玄大徳御祥月命日法要が行われ、お焼香をさせていただきました。また、講話後にはお楽しみの節分会が行われました。

ここ数年1、2月は雪の心配をしていましたが、今年は特別でした。10日

最後は着付けのお手伝いをされていた方々も加わり、全員で総まきに参加。ご宝前にお供えしてあった物をすべてまいて終了しました。

その後、楽しみの福引です。各家庭の不用品等を持ち寄った物ですが、くじで当たった物を見比べては品定めをしたりして、とても盛り上がりました。終了後はご供養のお弁当をいただき、拾った福を楽しみに待っている方達へ、一人でも多くの方にお裾分けしようとうれしそうに帰っていかれました。

(通信員 笹原眞由美)

の奉仕の日も雪。12日の講日当日も雪が不安でした。京都・安藤順法上人が講師としてお越しくださることになっていましたが、この雪で新幹線は動いているかなと心配になりました。

ただ、「心配する心で信心せよ」の言葉を思い出し、お題目を唱えながら車

を走らせました。道中雪だまりがちよこちよこありましたが、太陽が雪を銀色に輝かせ、見上げれば青い空が広がっていました。

手嶋上人は「人を助け、幸せになると、自分が幸せになります。心配しなくてもなるようになります。今日一日、今を生きる。人生はサービス業です」とお話しくださいました。

無事に到着された安藤順法上人は「伝教大師の『忘己利他』己を忘れる己を後にする」のお話をしてくださいました。「忘己」何を第一にしていますか(『法音』平成29年2月号の山首上人さまのお言葉)につながるのだからに落ちました。

お帰りは「どうぞ道中ご無事に」と、皆さまと順法上人をお見送りさせていただきますました。

(通信員 海野和子)



## 優しさと思いやりにふれ、うれしくなりました

2月12日午後1時より、節分会が行われました。

法要後、島田知教上人より「怒らないように、貪らないように、愚痴・不徳を言わないように、感謝して喜んでお徳を積んでいきましょう」とのご話をいただきました。

そしていよいよ豆まきの始まりです。4座に分かれ、お揃いの法被姿で厄除け祈願を受けます。お上人の力強い読経が本堂に響き渡り、心が洗われる思いがしました。そして、お上人の「福は内」のご発声とともに皆さん、一斉に福豆やお菓子をまきます。子ども達も「ワーワー、キヤーキヤー」言いながら夢中になって拾いました。拾った物をお隣の人にお裾分けされるご年配の方もいらっしゃいました。

4座が終わると総まきです。ご宝前にお供えされた野菜・果物・するめ・

紅白のお餅等、次々にまかれます。後方で両手を広げて待つていらっしやる人を見つけると、その人に向けてまいてくださいます。できるだけ皆さんに届くようにという、お上人の心遣いとてもありがたく感じました。

次はもう一つのお楽しみのお福引です。番号が読み上げられる度に、堂内には歓声とため息が。当たった方の中に

### 山形布教所Ⅱ節分会

## 前から後から、飛び交った福豆・お菓子

2月19日のお昼ご飯は赤飯にたくあん、白菜と胡瓜の漬物、わらびのおひたし・大根・ちくわ・揚げ豆腐・はんぺんのおでんと、思い出すだけでも自然と唾がわいてきます。この日は山形布教所の節分会。

定刻、お参りが始まり、袴姿の厄除

「お父さんが好きなので、これにします」と幾つかある景品の中からビールを選ばれた娘さんがいらっしやいました。お父さんへの優しさと思いやりにふれ、こちらまでうれしくなりました。今年の福引は敗者復活戦もあり、大盛況の内に終わりました。

参詣された皆さんは、たくさんのお徳をいただき、笑顔で帰られました。

来年も多くの方に来ていただけるよう、精進していきたく思います。

(通信員 花崎寿美 代 永井いつみ)

けの方達が次々と豆をまきます。とどめは総まき。前から後ろから飛んでくる福豆が、お菓子が、身体に頭におつかってはドサツ、パサツと派手な音を立ててきます。

「こうやって取るの」「こう構えるのよ」「だめだめ、手はこう広げるの」

と親子兄弟姉妹相伝、来年も楽しみみです。

総まき直後にも、また楽しみがあるのが山形の伝統。総まきで拾ったお菓子類にさまざまな仕掛けが施されていて、それがクジの役目を果たします。

例えば、「当たりは、このキャンディ！」「やった！」。「いや、その中のリングゴ味。赤色のものだけ」「ぎ、ぎんねーん」という具合です。

一方では、せっかく当たったのに、

## 明川支院Ⅱ節分会

# 大盛況で、うれしい悲鳴が聞けました

2月19日、節分会が開催されました。毛利上人・役員・奉仕の方々が午前9時に集合し、運営委員長が「来院くださる方に喜んでいただきましょう」と励ましの言葉を述べられました。

早速、清掃、支院旗・題目旗立て、福袋詰め、福柁詰め、福引きの準備が始められ、台所ではお昼の用意とともに、おみやげの支院名物・とりご飯を

「食べちゃった（でも、袋は残ってて良かったねえ）」という楽しいハプニングもあって、笑いに包まれたひと時を過ごしました。

小山先生はご挨拶の中で、「ここいらっしやるのは貪・瞋・痴というオニを成仏させている方達ばかりなので、鬼はいません。だから法音寺ではオニハットとは言わないのですよ」と教えてくださいました。

（通信員 川合和美）

作っていただきました。お上人方にもとりご飯を召し上がっていただき、「おいしい」と大好評でした。

午後1時30分、定刻に法要が始まり、毛利上人から「厄除けの豆まきから、相手に施す心を学んでください」とご法話をいただきました。

いよいよ節分会です。厄除け祈願者へはご宝前に並び、祈願を受けられた後、

中央に敷かれた白布の上を進んで、お上人の「福は内」のご発声とともに豆をまかれました。

福豆・菓子・鮎・チョコレート・おもちや等々が降ってきました。拾う人達も「福は内、福は内」と言いながら満面の笑顔で拾います。最年少の3歳から最年長105歳の方まで、老若男女が交代で、豆まきを賑やかに楽しみました。

一息入れて、次は福引きです。景品を渡すプレゼンターを小学5年生の男の子2人が務めました。さあ、何が当たるかドキドキ、ワクワクです。皆さん当たった景品に感動、そして景品についている『一日一言』のお言葉に納得されたことと思います。

最後に、とりご飯とペットボトルのお茶を受け取られ、拾った福と景品、今日来ることができたお徳と、喜びと、楽しかった思い出をおみやげに、皆さん帰途に就かれました。

厄除け祈願を受ける人が予定より多く、うれしい悲鳴が聞けました。

今日の大行事を無事に終えることができたのも、諸天善神・三先師・日達上人・山首上人さまのご加護と感謝し

### 佐屋支院Ⅱ節分会

## 笑顔でおもてなしに努めました

2月19日、節分会が行われました。予報通りの晴天でしたが、北風が冷たく、この時期らしいお天気となりました。

午前9時、奉仕の方々が揃ったところで、村上善立上人より「お越しくださった参詣者を感謝の心でお迎えし、来て良かったと思っただけに過ぎません。よろしくお願いします。」とお話がありました。そのお言葉を肝に銘じ、皆さん笑顔でのおもてなしに努められました。

バザー開始の10時30分になると、境内バザー会場は大賑わい。うどん・白玉ぜんざい・飲み物・パンなどが振る舞われました。寒い屋外にもかかわらず、会話は尽きることがありません。午後1時、善立上人導師のもと節分

て、一同喜びのうちに散会しました。

(通信員 鈴木初枝)

会が厳修されました。厄除け祈願の人数が昨年を大きく上回り、盛り上がりは例年以上のものとなりました。本堂、

1階小宝前は参加者で埋め尽くされ、身動きできないほど。そんな中、お上人方の、「福は内」の掛け声とともに、福豆・お菓子・おもちゃ・クッション

### 岐阜支院Ⅱ節分会

## 歓声の嵐、歓喜の笑顔、楽しい光景です

2月26日、恒例の大行事・節分会が厳修されました。今年の豆まきは400名で8回に分けて行われました。

1月上旬より福豆入れが始まり、枡詰め・福袋作りが毎日、有志の方のご奉仕によって準備されてきました。1

・ショッピングバック・手作りの小物がまかれました。堂内には歓声が響き渡り、皆さんの喜びが本堂全体を包み込みました。

最後に総まきが行われ、善立上人より「たくさんのご奉仕の方々にご協力いただき感謝しています」と労いのお言葉を頂戴しました。

当支院の信者さんはもちろんですが、名古屋地区のご奉仕の皆さんのお力添えなくして、これほどの行事を実施することはできません。行事の成功の喜びは、大きな感謝となりました。

(通信員 岩間淑子 代 村上美奈子)

週間前の日曜日には40名の方により、ご宝前の準備や本堂の花道の設営、備品の準備が行われました。初参加の男子高校生も、ベテランの方の指導を受け、喜んでお手伝いしました。

前日の土曜日には50名の奉仕者が参

集、豚汁の下準備等が行われました。皆さん、節分会の成功を願って細部にまで気配りし、笑顔でご奉仕されていきました。

節分会当日は澄みきった青空とぽかぽか陽気に恵まれ、奉仕者は活気にあふれていました。甘酒・コーヒーのコーナーでは参詣された方々が楽しく召し上がっておられました。

本堂に入るとご宝前には、お供えの紅白餅やご供養の座布団が高く積まれています。午後1時頃には本堂は満員で、立錫の余地もないほどでした。

午後1時30分、前原上人導師のもと厄除け祈願法要が始まり、迫力ある読経が流れる中、袴姿の善男善女や子ども達が入場し、内陣に正座してご祈願を受けました。お上人方の力強い読経の聲が堂内に広がり、心身が清められます。参詣された方々も真剣に手を合わせておられます。

お上人の「福は内」のご発声で静かから動へ。福豆やお菓子の数々が宙を舞い、手を伸ばす子ども達の歓声が賑や

かに響きます。左、右、中央の花道から「福は内」「福は内」の声。まく人、拾う人の笑顔がみな福顔となります。

2回目、3回目と進み、4回目は奉仕者50名による圧巻のケースまき。ずっしりと重い大きなかぶ・白菜・人参・ハツサクみかん・大根などが手渡しされます。福豆やお菓子がシャワーのごとく降り注ぎ、子ども達は目をキラキラ輝かせてお菓子をキャッチ、大人も負けず笑顔で拾います。袋ははちきれそうです。

前半4回が終わり休憩に入りました。参詣者全員が境内に出て、丹精込めて作られた新鮮野菜たっぷりのお餅入り豚汁をいただきました。「おいしいです」と今年も好評でした。

再び本堂に戻り、谷田上人よりご法話をいただきました。初めての方も熱心に聞き入っておられました。

後半の5回目が始まり、7回目は再び奉仕者によるケースまき。8回目は大まきの総供養です。

最後のご祈願が終り、ご宝前の紅白

のお餅・座布団・ビール等の総まきが始まりました。割れんばかりの歓声と熱気で汗ばみます。待ち構える子ども達は最高の笑顔です。福徳を乗せて宙を飛ぶ品をキャッチする瞬間の歓声の嵐、歓喜の笑顔、楽しい光景です。ある方は「今回初めて袴を着けご祈願を受けさせていただきました。それだけで大きな収穫でした」と心から喜んでおられました。

参詣の皆さんはそれぞれ福徳をいただかれ、大きな袋を手に笑顔で支院を後にされました。

たくさんの方に支えられ無事、節分会を終えられました。諸天善神・三先師・日達上人、そして山首上人さまのご守護のお陰と感謝いたしました。

(通信員 三輪一女)

支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。

# 福祉のひろば

## 少子・高齢社会の中の日本の福祉

前号でご紹介した「アンガーマネジメント（怒りの感情を自己管理する）」における「対症療法」と「体質改善」について具体的にご紹介します。

### 【対症療法】

#### その① 「怒りの段階分け」

怒りを数値化し、自分がどれだけ怒っているかを客観的に把握します。

- (0) … 怒りを感じない穏やかな状態
- (1～3) … 「まあいいか」で流せる軽い怒り
- (4～6) … ヤキモキした気持ちが残る、少し強い怒り
- (7～9) … 憤りを感じるかなり強い怒り

(10) … 絶対に許せない人生最大の怒り  
点数をつけることに集中することで、怒りに向かっていった気持ちに歯止めがかかって、反射的な行動を防ぐのに役立ちます。

#### その② 「魔法の言葉かけ」

気持ちが落ち着く言葉を5つ程度用意しておき、イラッとした時に自分に投げかけます。

#### その③ 「思考停止」

怒りを放置すると感情が増幅してくるため、「ストップ」と自分に向かって唱え、イライラしている自分の思考を停止させます。

#### その④ 「ものを観察する」

目の前にある物の特徴や良さを観察することで、怒りに向かっている思考を別のものにそらせ、気持ちを落ち着かせます。

#### その⑤ 「その場を離れる」

一度、その場から離れて気分を落ち着かせます。

#### その⑥ 「楽しいこと、好きなことを考える」

肯定的なことを考えることにより、否定的なことを軽減させることができます。

### 【体質改善】

#### その① 「怒りの強さの段階をメモにとる」

いつ、何が起こり、それにどう対処したか、怒りの強さの段階をメモにとり、自分の怒りの種類を把握します。

#### その② 「自分の怒りの種類を知る」

(1) どういう状況で怒ることが多いか

(2) 怒った時、どういう行動をとっているか

(3) 自分の行動がどんな結果をもたらしているか  
これが把握できれば、次に同じようなことが起こった場合に、適切な解決方法を見つけていることができます。

#### その③ 「不要な思い込みを変える」

「思い込み」とは、自分の価値観のことです。この価値観を(1)OK(2)許容(3)NGに区分します。この3つの範囲をきちんと把握し、許容範囲を広げることが「体質改善」療法です。

「対症療法」と「体質改善」を練習すると、認知症高齢者も、介護する人も、不安やストレスを軽減できようになります。

(K・T)

参考：『マンガでよくわかる怒らない練習』 安藤俊介氏監修

(株) リンダバブリッツシャーズ発行

# 福祉に 生きる

特集

## 第9回

### 社会福祉法人昭徳会 福祉実践発表会を開催



生方にお願ひし、ご協力いただきました。

また同大学より来賓として2名の方をお招きしました。職員126名、4月入職の新卒内定者14名の142名が見つめる中、児童、障がい、高齢の3分野18施設が日々の取組みを発表しました。

2月18日、昭徳会は「日々利用者へ質の高いサービスを提供できるかを全施設で検討する」主旨で、法音寺開山堂において「福祉実践発表会」を開催しました。今回新たに外部審査員として日本福祉大学から3名の先

どの発表も優れた内容で、外部審査員から「質が高く、すばらしい発表でした」と、おほめの言葉をいただきました。

発表の後、児童、障がい、高齢の各分野で最高点を獲得した3施設と特別賞1施設が発表され、鈴木正修理事長から表彰状と記念品が手渡されました。優秀賞3施設は、一般の方々が参加する「第9回福祉セミナー」（6月24日開催）で発表する榮譽を獲得しました。

- 最優秀賞（児童分野）…天王保育園
- 優秀賞（障がい分野）…障害者支援施設 泰山寮
- 優秀賞（高齢分野）…特別養護老人ホーム安立荘
- 特別賞…高齢者グループホーム 小原安立

法人本部事務局 事務員 辻 照彦

※関連稿の写真は昭徳会の提供 P 56～P 74

◆養護老人ホーム高浜安立デイサービスセンター

## 笑顔あふれるデイサービス

ゆる気の出る余暇活動

生活相談員 工藤 麻友美

私たちのデイサービスでは、利用者の皆さんが行うさまざまな活動にポイントをつけた、ポイント制度（青春18ポイントカード）を実施しています。ポイントは景品と交換でき、カードを18枚貯めると『夢』を叶えることができます。ポイントカードを始めた時は皆さんがいきいきとしていました。8年が経ち、以前のような活気がなくなってきました。

そこで、利用者の皆さんに楽しみながらポイントを貯めてもらえるよう、余暇活動を見直してみることにしました。利用者の皆さんから意見を聞き取り、脳トレニングやクラブ活動を増やすと、以前は意欲が見られなかった方からも「これならできる！」といった声が聞かれ、積極的に取り組まれる姿が多く見られるようになりました。

脳トレニングやクラブ活動など新しい取り組みを行

う中、日頃の活動の内容ももちろん大切ですが、利用者の皆さんが「何のために頑張るのか」という目的がはっきりしていることが最も大切だと気づきました。ポイントカードを18枚貯めて『夢』を叶えるには、1年以上かかります。それでも、『夢』がはっきりすることで皆さんが意欲的に取り組まれるようになりました。『夢』といっても、最初は食べたい物や行ってみたい場所といった身近な『夢』の話ばかりをしていました。

しかし、利用者の皆さんと話をする中で、叶えたくても叶えられないとあきらめてしまっている『本当の夢』があることに気づきました。その『本当の夢』を叶えるために、利用者の方たちと一緒にやって取り組むことで、信頼関係を築くことができると感じました。これからも利用者の皆さんが『本当の夢』に向かって、いきいきとした生活が送れるよう、職員一同頑張っていきます。



◆天王保育園

わくわく 笑顔 探してみよう

〈選ばれる保育園作り 第2弾〉

グループリーダー（保育士） 西村 理沙

昨年は、制服の変更・園歌作り・職員の資質向上など「選ばれる保育園作り」に取り組んできました。今年も第2弾として、天王保育園の良さを地域の方々に知ってもらい、地域に根づいた保育園作りをめざしていきたいと考えました。

取り組みの一つが、職員による園見学への対応です。今まで園見学は園長先生が説明していましたが、他の職員がいざ対応してみると、緊張からうまく説明することができません。園の魅力をしっかりと認識し、地域の方々にわかりやすく伝えられるよう「論理的思考力向上研修」を受講。また、研修の成果を確認するため園長・課長が保護者になり、園見学の対応研修を行いました。研修の成果もあり、職員も少しずつ落ち着いて話ができるようになりました。

また、保育園には園見学だけでなくさまざまな方が訪

れます。そういった方々にも園の魅力伝える方法がないかと考え、子どもたちが感じたことや危険箇所などをまとめた「散歩マップ」を作り、自然豊かで素敵な環境を地域の方々に知ってもらうことにしました。職員に意見や新しい発想なども集め、手作りの温かさなどを出すため、イラストは絵が得意な岡先生が書きました。

改めて園外の環境を見直すと、危険箇所に気づいていない職員がいたことに驚き、良い機会となりました。来園された方に「散歩マップ」をお配りすると、保育の一環として行われている散歩に興味を持たれ、保育園の魅力の一つを感じていただくことができました。今回の福祉実践を通して、天王保育園の良さを皆さまに知っていただけたように思います。保育園を訪れたすべての人が、明るく、温かく、元気にあふれた魅力ある園だと感じてもらえるように、今後も、前を向き勇氣を持って「魅力ある園作り」に取り組んでいきたいと思えます。



◆高浜安立荘デイサービスセンター

## デイサービスが目指すもの

～在宅での生活に目をむけて～

生活相談員 谷口 好美

平成29年1月現在、当事業所をご利用されている方の要介護1、要介護2の割合は全体の半数を占めています。認知症や要介護状態になっても住み慣れた地域で、自立した生活を送れるように支援することがデイサービスの役割です。そのため、認知機能・身体機能の維持、改善として、回想法・学習療法・パワーリハビリテーションを支援の手段として個々に合わせて提供しています。

今回は、パワーリハビリテーションの事例を発表します。Aさんは、要介護1の女性です。ご家族の協力のもと、自分でできることは自分で行いながら生活していました。散歩に出かけることもできていましたが、腰椎圧迫骨折の痛みにより、外出することがむずかしくなり、デイサービスを利用するようになりました。主治医から意見をいただきパワーリハビリテーションも開始しました。しかし、自宅で、洗濯物を干している時に転倒し、

左足付け根を骨折しました。手術、リハビリを受けて退院後、デイサービスの利用を再開。ケアマネージャーの作成したケアプランに「ふらつきはあるが、バランスを崩すことなく歩行ができる」とあり、併せてパワーリハビリテーションも開始しました。現在はシルバーカーを使用して、近くのスーパーに自分の食べたいものを歩いて買いに行くことができます。

この事例のように、ご家族の協力も必要ですが、医師、ケアマネージャー、その他の在宅サービス等、他職種で連携をとることも重要です。生活を意識して個々に合わせるかを考えて提供し、「デイサービスにလာたら元気になる」を目標に今後も取り組みます。



◆障がい者支援施設・泰山寮

## 幸福の実現を目指そう

～カルタに想いをのせて～

生活支援員 川越 湧矢

泰山寮は昭和61年の開設から30年が過ぎました。30年間に培ってきた自閉症の方への支援の成果をまとめようと、「自閉症支援カルタ」を作りました。自閉症の障がい特性と、その支援に対する支援のポイントを50音にまとめました。カルタにすれば、聴くことに集中できて自然にカルタの文章を覚えられます。また、内容に興味を持つようになり、大切な事柄を楽しく学ぶことができるのです。

これまでの支援を振り返り、利用者さんの生活を支える上で、私たち職員に必要な事柄についてもカルタにしてまとめました。新たに、①障がい者虐待防止・権利擁護、②栄養健康、③保健衛生、④防災、⑤職員行動指針を盛り込んだカルタを作りました。カルタは、施設内で日常的に目にできる場所に掲示し、会議や委員会時にはカルタ取りをして内容の確認や業務の振り返り

に活用しています。

自閉症支援カルタは、地域の方にも活用いただくために、見学者等に紹介し、一緒にカルタ取りを体験してもらっています。みよし市福祉課の窓口を設置してもらおうと、「コピーがほしい」との依頼を受けることがあります。市内の中学生が泰山寮に福祉体験交流に來られた時には、生徒さんたちとも一緒にカルタ取りをして、障がいへの理解を深めてくださいました。生徒さんたちは、カルタに挿絵も描いてくださり、良い地域交流の機会が持てました。

今回の取り組みで、連帯感と達成感を味わうことができただけでなく、今まで漠然としていた知識について、再確認する機会になりました。さらに「泰山寮いいところPRカルタ」を作り、施設の良い点を確認できました。今後も利用者さんの幸せの実現に向けて、挑戦していきます。



◆軽費老人ホーム・ケアハウス大阪安立

## ほめリスト

「あなたのことを教えてくださーい！」

生活相談員 谷本 雄太

ケアハウス大阪安立は、自立の方から要介護3程度の歩行可能な方が共同でお住まいになる老人ホームです。職員は介護ではなく生活支援として支えていますので、皆さま普段の生活は自由に過ごされています。

初めて共同生活をされる方は、入居者同士の人間関係に不安を持つ方が多く、職員が話を聞いています。挨拶しても返事がない、という思いが大きな不安となり、単純に「挨拶が聞こえなかった」とはならず、「憎まれている」と思い込む方もいます。

そこで、笑顔を増やす取り組みとして「ほめリスト」を行うことにしました。まず職員それぞれがどのような言葉を使ってほめているのかを、一人ひとり書き出してほめ言葉を共有することから始めました。すると、自然と会話が弾み、笑顔が増える結果になりました。会話が增えると、入居者さんをもっと知りたいと思うようにな

り、「あなたのことを教えてください」と題した質問調査を実施しました。たくさんさんの質問にもかわららず丁寧に記入していただき、詳しく知ることができました。皆さまにも私たちを知ってもらうため、職員も同じ質問調査に記入して掲示しました。これにより会話の回数や時間が大幅に増えて、笑顔になる回数も増えました。ほめるという目線で見れば服の色や髪型、靴下の模様や爪の色など、些細なことでも相手をほめようとする意識が芽生えます。

また、「良い所を見つけて言葉にしよう」という思いが家族や職員同士にまで広がっていき、ほめる輪がより広がっていきます。小さな気づきを大切に、まづほめる実践を通して、笑顔の輪が広がるようにこれからも継続してまいります。



◆児童養護施設・駒方寮

## 怒りん坊君の軌跡

〈過去・現在を経て今後の見通しを考える〉

児童指導員 川口 春香

現在、児童養護施設への入所理由は約6割が虐待です。O君も母親による身体的虐待を経て駒方寮に入所しています。O君は些細なことで怒りが爆発し、それを自制できないことでも苦しい思いをしています。O君は怒ると暴言を吐くことがあり、さらに怒りが増幅すると見境なく暴力を振るうことがあります。そのようなO君に対し、解決への順序をわかりやすく図式化した手順書を作成しました。トラブルの長期化を防ぎ、職員が冷静かつ根拠をもってスムーズにO君へ対応するためです。

去年の10月に実施し始め、駒方寮の全職員へ周知・徹底し少しずつ定着してきたこの取り組みは、その甲斐あってどの職員が対応してもトラブルが未解決のまま終わることはなくなり、必ず謝罪できるようになりました。O君自身トラブルにならないよう、気をつけて生活を送ることができており、トラブルの回数が減少しました。

そして暴言・暴力も我慢できることが増えました。現在は暴力への対応として、児童相談所の担当者と連携を図っており、暴力があった場合は担当者より振り返りを実施していただいています。

今後も外部との連携を図りながら支援を考えていきたいです。ほかにさまざまな支援を実施して

きた結果、最近のO君は成長を続けていますが、まだまだ問題は山積みです。中学校への進学に向け、暴言暴力をなくし、友人関係の中で適切な親交を図っていく等乗り越えるべきことは多いです。O君と力を合わせて頑張っていきたいと思っています。そして、精一杯子どもたちの成長のお手伝いをしていきたいです。



◆軽費老人ホーム・ケアハウス高浜安立

## Mさんからのメッセージ

### 「転倒事故を減らす取り組み」

介護員 坂 忠行

今回の取り組みを行うきっかけとなったのは、私が初めて担当した入居者Iさんとの突然の別れです。Iさんは、歩行器を使用して歩いていましたが、昨年2月に居室の扉が足にぶつかりケガをされ、車椅子生活となりました。そして、3月、虚血性心疾患にて急死されました。Iさんの最期が、ケガで不自由な生活となってしまったことが心残りでした。このことから、事故予防の取り組みが必要であると感じ、安全対策委員会で検討しました。まず、前年度と今年度の事故発生状況を確認したところ、今年度は事故件数が増加していました。特に転倒の増加が目立ちました。これは、Mさんという男性入居者の転倒が急激に増えたことが原因でした。『なぜ転ぶのか?』について状況把握を行った結果、Mさんは夜中、一人でコーヒーを作ろうと歩行器を使って動き、左に方向転換した時に転倒していることがわかりました。この

ことから、『自分で安全にコーヒーを作るにはどうするか』という視点で対応方法を検討しました。そして、ベッドの横にコーヒー用の棚を作成し、居室内の環境を整備しました。また、福祉用具の選定などを行いました。『転倒を減らす』という目標を達成することはできませんでしたが、これは、環境面の改善のみの取り組みとなり、その人の生活全体を考えていなかったためです。『安全』と『生活の質』の両方を考え、対応していくこととのむずかしさを痛感しました。今回学んだことを活かし、入居者の皆さんが、ケガをすることなく、より良い生活を送ることができるよう努めていきたいと思えます。



◆障がい者支援施設・小原寮

## オリゴ糖による排泄ケア

～薬に頼らない排便コントロール～

生活支援員 板倉 加奈

小原寮では高齢化が進む中、少しでも落ち着いた生活を過ごせるようにと、薬に頼らない排便方法を検討しました。また、利用者さんが「すっきりした」と思えるような快便をめざすことにしました。

オリゴ糖を提供することで善玉菌が増え、腸への負担が減り、便秘・下痢の両方に適しているということを知りました。また、オリゴ糖は砂糖と成分が異なるため、糖尿病の方でも大丈夫とのことでした。その他さまざまな知識を学び、支援員間で共有する方法を統一しました。便の状態は、量についてはソフト、テニス、ピンポンの3つのボールを用いて確認項目を作成し、利用者さんの状態を把握しました。

便秘になると御飯が食べられなくなり、とても苦しうだったAさんは、オリゴ糖の使用量を守って飲んでもらうと2、3日おきに排便があり、食欲も昔のように戻

って施設外へ行き、おいしいものを食べられるようになりました。

好き嫌いが激しく、10日も排便できない時もあったBさんは、オリゴ糖の提供を始めるのと徐々に排便回数が増え、現在では3日に1回のペースで排便するようになりました。また、オリゴ糖だけではなく、便秘に良い玄米食も用いています。その結果、浣腸の使用頻度が減り、利用者さんの笑顔が増えました。

今後の課題は、下剤をまだ使用している方にどのような対応をしていくかということと、排便後、職員に報告できない方の状態をいかに確認するかということです。さまざまな課題がまだまだ見られますが、職員の連携を密にして利用者さんの支援を行いたいと思います。



◆高齢者短期入所生活介護事業・いこいの宿高浜安立

## ショートステイでの自立支援の取り組み

～いつまでも在宅生活を～

看護師 内藤 知恵子

いこいの宿高浜安立は、単独型ユニット型のショートステイ事業所で定員20名、毎月60～70名程度の方が入れ替わりご利用されます。目の前でお寿司を握ったり、郷土料理を提供するイベント食を毎月3回実施したり、地域のボランティアサークルを活用した余暇活動の提供やパソコン回想法を使用した認知症ケアなどに取り組んでいます。

短期入所は、ご家族の介護負担の軽減というご要望が高い傾向にあります。だからといって、漠然とした支援のみではご利用者の加齢に伴う身体機能の低下や認知症の進行を招きやすく、介護負担が増加し、長期入所の必要性が生まれてしまいます。そこで当事業所では、元氣な状態を維持することで在宅生活を続けていただけるよう、自立支援介護の取り組みを開始しました。

大切なことは、水分をたくさん摂っていただくこと

と、たくさん運動していただくことです。

水分を摂っていただくための工夫としては、水分の種類を増やし、季節に合った手作りジュースやゼリーを作り、作業する楽しみを味わってもらいながら、飲んでいただきます。また、ご家族に嗜好を伺い、好みのものを持参いただいています。

運動に関しては、施設内に東海道五十三次の絵を貼り、歩行中に会話が弾むようにしました。また近くの海岸や施設周囲の散歩などを日課に取り入れ、歩行距離を伸ばすとともに気分転換も図りました。身体を動かす機会が増えることで水分摂取量も自然に増える、相互作用も生まれましました。今後もしも取り組みを継続し、ご利用者が楽しんで在宅生活を続けられるよう努めていきます。



◆児童養護施設・名古屋養育院

## 子どもの育ちを支える

～心理からみた名古屋養育院における支援体制～

心理療法担当職員 永草 光一

心理は現場とはやや距離を置いた立場にあります。こうした立場を活かし、心理の視点から、養育院の支援体制をまとめます。子どもは慣れ親しんだ家庭から離れて施設で生活することになり、不安定な心持ちになりやすく、社会に対して不信任を抱きやすい状態にあります。そこで、次のような支援を提供しています。

一つ目に、嗜好調査や子どもの食事の様子を観察から得られた情報をもとに、子どもの喜ぶ食事について考えています。口の中に外部のものを取り入れる体験は相手の考えを受け入れることに通じます。食事を通して他者に心を許す情緒体験を育みます。

二つ目に、規則的な日課を設定しています。子どもたちに安定した枠を繰り返し体験させることによって、守られている感覚を育みます。

三つ目に、子どもが心地良い夢見体験ができるよう援

助しています。不安定な状態下では夢見の阻害、あるいは悪夢を見らるといった事態を招き、情緒発達が阻害されます。そこで、眠れない子への添い寝、紙芝居、絵本読み、あるいは個別の話し合いによる日常生活の悩みの解消などに努めています。

四つ目に、心理療法による援助をしています。子どもが精神的に不安定になる一因として、家族との接触が少ないために生じる家族像の希薄化がもたらす自我の形成の失敗が挙げられます。心理療法によって、子どもに自己の存在について考える機会を提

供しています。  
以上のように、児童指導員、保育士、栄養士、調理員、臨床心理士の協働のもと、子どもの心を支えています。



◆特別養護老人ホーム・高浜安立荘

## 在宅入所相互利用の取り組み

〈住み慣れた家でいつまでも〉

介護員 三久 将弘

高浜安立荘では平成26年度から介護保険の加算を受け、在宅入所相互利用に取り組んでいます。在宅入所相互利用とは2カ月置きに在宅と施設入所を繰り返し、施設入所中に認知症と身体機能の改善を行い、在宅生活を少しでも長く継続できることを目的としています。この取り組みは全国でもまだ数施設しか実施しておらず、愛知県は高浜安立荘でしか実施していません。これまでに6名の方がこの制度を利用しています。

Aさんは一人暮らしをしていましたが、病気の進行により自宅内で転倒する回数が増えていきました。施設に入所せず、ご自宅での生活を強く望むAさんが、在宅生活を続けていくために、2カ月の入所中には歩行訓練やパワーリハビリの実施、階段の昇降訓練や、1日の水分量を1500ml摂取すること、食物繊維を補給するといった支援を行いました。しかし、施設利用時に改善でき

たものが、再び在宅に戻った時には以前の生活のように水分量が少なくなるなどの問題がありました。そのため居宅サービス事業所に私たちの取り組みを継続していただき、また毎月サービス担当者会議を実施し、情報を共有することで施設と在宅生活で同様の支援をすることができました。

Aさんは在宅入所相互利用を始めて約2年ですが、現在も在宅生活を続けています。要介護度も3から1に改善しました。この在宅入所相互利用を通して、特養に入所したご利用者が元気になって自宅に戻られる姿に私たちも達成感があり、ご家族にも喜んでいただけることで介護職に新たなやりがいを持ってました。ご利用者が住み慣れた家でいつまでも生活が送れるよう、在宅入所相互利用の取り組みをこれから専門性を持って続けていきたいです。



◆障がい児入所施設・小原学園  
なんでイライラしてるの？

～怒りの感情との付き合ひ方～

保育士 山田 弘樹

ここ数年、軽度の知的障がいやADHD（注意欠陥・多動性障がい）、幼少期に虐待を受けたことで愛着障がいのある中学生が多く入所しました。彼らは自分の気持ちを表現することが苦手で、不快や不満を暴言や暴力で表すようになっていました。

こうした状況の中、利用者が気持ちをやうまく表現し、怒りの感情と上手に付き合っていけるように、「アンガーマネジメント」という怒りに対処する手法を使った支援を開始することにしました。

まず、怒りに結びつく嫌な感情にはたくさん種類があり、嫌な感情が心に蓄積すると怒りがあふれてしまうことを伝え、怒ったことを振り返り、どうしたら落ち着くことができたのかを支援者と一緒に考えるようにしました。

すると、利用者が支援者の言動に怒りを感じているこ

とがわかりました。これまでの支援を振り返ると、支援者が利用者へ意思を伝える際、「○○するべきだ」と感情的になっていることがありました。そのため、利用者だけでなく、支援者も「アンガーマネジメント」を理解し、感情を調節することを通して対応を見直すことにしました。支援者全員でアンガーマネジメントについて理解を深め、利用者の気持ちに対し、受容と許容を心掛けるようにしました。

取り組みを開始してから、利用者の暴言や暴力の件数は減り、支援者と利用者が話す機会が増えました。利用者、支援者ともに今後もアンガーマネジメントに取り組み、感情に流されず気持ちをうまく表現していけるようにしたいと思います。



◆特別養護老人ホーム・安立荘

## みんなの安全を守ります！

### 見える化で厨房内の危険を防ごう

調理員 三谷 富美子

「食事」とは日々の生活の中でも大変重要で、入居者にとっては楽しみの一つです。老人ホームでは食中毒を起さない衛生管理のほか、個別対応、味のバラつき、怪我等さまざまなことに注意を払う必要があります。この中で厨房では、「安全でおいしい食事の提供」を入居者の「幸福」につなげるという大きな目標を掲げています。この目標を達成するために、①業務の確実性、次に②危険の予知力、さらに③考動力をつけ、より安全かつ効率的な業務遂行をめざしています。これらを念頭に置き「リスクアセスメント」という職場の潜在的な危険性を見つけ出し、これを除去、低減するための手法で業務改善を実施しました。最初に危険箇所の特定、次にリスクの見積もり、リスクレベルを決定という手順で行います。点数が高いほど危険性が高く、その場所から優先的に取り組める仕組みです。

今回は同時期に行われた保健所監査での指摘事項と、リスクレベルの高かった項目から調理作業関連、衛生管理、腰痛予防対策など6つの改善に取り組むこととしました。職員同士知恵を出し合いながら改善した結果、すべての危険箇所ですべてのリスクレベルが低減しました。併せて全員同じ作業ができるように手順書を作成するなどし、見える化・標準化にも力を入れました。

取り組みの成果は、危険や問題を発見するだけでなくさまざまな波及効果がありました。栄養士の協力を得ながら、課題に対しての考動力がついたこと、職員間の話し合いが増えたこと、効率化できた時間でおやつイベントが開催できたことなどです。

今後も日々危険箇所を見つけ、さまざまな災害を防ぎ、入居者も職員も、皆が幸福を感じられるよう、仕事に取り組むたいと思います。



◆光徳保育園

## 「HAPPY SMILE」

～みんなで考えるアレルギー対応～

保育士 村松 裕平

光徳保育園には、食物アレルギーを持つ子どもがいますので、「みんなで考えるアレルギー対応」を実践テーマとしました。安全な「食」を提供するために講師を招き、施設内研修会を行った結果一人ひとりに合った対応をすることで子どもの「心と命」を守っていくことができるようになりました。

子どもたちにもアレルギーについて伝えていくと、関心が高まり、声を掛け合うなど、気持ちの変化が現れました。そこで、「アレルギーを持つ子どもたちにも、みんなと同じものを笑顔で楽しく食べてほしい」という職員の思いが高まり、アレルギーに対応したクッキング保育やアレルギー対応メニューで「スマイルカフェ」という「おやつのお会」を実施しました。自分たちが作った物を食べることや、みんなが同じ物を食べられることが喜びにつながり、笑顔が増えることを実感しました。

ここ数年のヒヤリハット（重大な事故に至る一歩手前の事例）を見直すとアレルギーに関するヒヤリハットが、毎年数件でていました。

そこで、職員の危機管理意識を高めるため、みんなで協議してアレルギー一覧表とアレルギーカードを改善しました。

今回の実践を通して、食物アレルギーが乳幼児期に多く見られることから、保育園でのアレルギー対応が重要だと再確認しました。アレルギーで命を落とすといったニュースも度々聞かれます。しかし、光徳保育園を利用するすべての方の「HAPPY SMILE」をめざして、アレルギーを軽視せず正しい知識を持ち、一人ひとりに合った対応をし、アレルギーがあっても安心して子どもを預けられる保育園をめざしたいと思います。



◆特別養護老人ホーム・小原安立

## 私たちの暮らしの継続

～若き日の記憶を探して～

介護員 中根 裕子

小原安立では日常生活動作の低下により、ご利用者が徐々にならなくなることが増えていく現状がある中、「願いや希望」や「個別生きがい活動」を実施してきましたが、さらに法人理念である「幸福」の具現化や生活習慣を大切にして活動できるように、取り組みを行いました。

取り組みについて職員に質問調査を実施すると、ご入居者についてご家族からの情報が少ないことがわかりました。その原因はご家族と交流を図ることが苦手と感じる職員がいることでした。ご家族からご入居者の情報を聞くために、会話の勉強会を実施し、ご入居者とご家族、職員の交流を兼ねた年3回のユニット行事等で学んだ対応方法を実践しました。ご家族と職員の距離が近くなり、昔の話を聞くことで関係性が深まりました。新たに聞いた情報を「願いや希望」「個別生きがい活動」に活かし、職員体制の変更や環境整備を実施しました。

一つの事例を紹介します。93歳、要介護度5の女性のM様は、意欲が低下していたため、ご家族と他職種で協議し、ご家族と過ごしたいというM様の願いを伝えました。すると、ご家族が好きな物を持参され、好きな時に好きな物を提供し職員の意識も変わりました。面会も増え願いが叶い、笑顔が増えました。昔、好きだったご家族からお聞きした編み物を渡すと、手際良く編み始める姿がありました。若き日の記憶を探すため、ご家族から昔の情報を聞き実践したことで、ご家族やM様の思いを知ることができました。若き日の記憶を取り戻していただきたいです。

取り組みを通してご家族と意思疎通を図ることが大切であると気づきました。定期的な勉強会を実施し職員の不安を軽減することで、さらなる信頼関係の構築と情報収集をすることが課題であると考えます。



◆障がい者福祉サービス事業・授産所高浜安立  
踏み出そうー！新たな一歩  
利用者さんのやりがいと笑顔を求めて

生活支援員 杉浦 知里

重度の障がいを持った方が利用される生活介護事業。その利用者さんは、就労移行支援事業や就労継続支援B型の利用者さんのように作業や活動に参加できていないことが課題でした。作業参加がむずかしい利用者さんの「やりがい」について考えました。

新たな取り組みとして、介護支援・工作・販売物品作成・園芸活動・外出支援などのさまざまな活動に取り組みできました。また、今年度より座椅子作りに取り組み、地域の民生委員や保護者の方に協力を依頼した結果、たくさんの座椅子を作ることができました。即売会では完売でした。

試行錯誤しながらの体制変更でしたが、ゆとりを持った介護支援を行うことで利用者さんの身体能力の向上がみられ、さまざまな活動により、利用者さんそれぞれが「やりがい」を持った活動に取り組むことができました。

また、座椅子製作を行うことで、保護者とともに販売活動を行うことができました。職員が目線が利用者さんのストレンクス（強味）に向き、それを活かす支援が主体になったことで、地域の利用者さんの中には、自ら「授産所に行きたい！」と希望される方も現れるようになり、良い変化が見られました。

今後の活動として、地域の高齢者の方と共同で手芸や工作などを創作し、即売会で販売していくことを目標としています。また、地域の福祉イベントや小学生の課外授業で多くの学生との交流を深め、次世代の育成にも努めていきたいと思えます。今後もさらなる交流企画を展開していきたい、開かれた施設として、地域とのつながりを大切にしていきます。



## ◆高齢者グループホーム小原安立 奪わない介護

介護員 犬飼 佐代子

グループホーム小原安立の入居者定員は6名です。自立度が高い入居者が多いため「自分のことはできるだけ自分でしたい」という声がよく聞かれます。職員が何気なくやってしまっている行動は認知症の悪化を招いてしまうため、今回のテーマ「奪わない介護」に取り組みました。

一つ目に入居者の皆さんは、家事をされてきた方がほとんどです。そこで、洗濯・風呂の準備・ご飯の準備に焦点をあてました。洗濯機の操作から洗濯物を干す、風呂の湯張りから沸かす、お米を研ぎ炊飯器のスイッチを押すことが一人でできるよう、アラームのセットや表示を付けました。迷っている時には工夫が必要になり、改善すると一人でできるようにしました。

二つ目に入居者同士の助け合いを奪わないことです。エプロンの紐が後ろで結べない方のために近くにいる人

が手伝っている姿を見守り、手を出さないことで助け合うことのすばらしさや、さり気ない優しさと思いをやりを改めて感じることができました。

家事活動に対する参加意欲や自主性が高まるなど、入居者に意識の変化がみられています。また、職員の意識にも変化がありました。入居者が望むことを叶えようとする気持ちが高まり、人の役に立つ喜びを感じることで自信につながり、入居者のできることをほめ、感謝の気持ち伝えることが増えてきています。

認知症高齢者が心地良く、自分らしく生きていけるお手伝いを今後もしていきたいと思えます。



## ◆駒方保育園

# 楽しく五感を育てよう

くまの星のドラム缶でピザ作り

保育士 恒崎 千佳

駒方保育園では五感を意識したピザ作りを行いました。普段から食育として、野菜の栽培や収穫、調理体験をしています。調理体験の中でも、「餃子の皮を使ったピザ作り」は子どもたちに人気があります。簡単でおいしく、ホットプレートで子どもたちの目の前で焼きます。いつも親しんでいるピザ作りをさらに、五感を使って調理できないものか？と考えていた頃、保育園の修繕工事をお願いしている家具工房のご主人が趣味で作ったドラム缶のピザ釜を持っているという話を聞きました。生地を最初から作り、子どもたちの目の前で焼くことで、五感をフルに使うピザ作りができると思いました。

子どもたちは、ピザの生地作りでは、火を起こすための薪割りや、さらさらの小麦粉が柔らかい生地になる過程を体験しました。ほかに野菜を調理し、ピザの上に飾りました。具を載せたピザを皆でピザ釜まで運び、子

どもたちの目の前で焼きました。ピザが焼けると「早く食べたい」と子どもたち。できたて熱々のピザを子どもたちの目の前で切り終わるやいなや、「熱い」と言いながらみんなでおべました。ピザ作りを通して、「食」と「五感」には深い関わりがあり、やはり「五感」を育てるには「食」がとても効果的だと思いました。

一つの素材がさまざまに変化することに、子どもたちは驚き、感動するのです。体験して感動したものはいつまでも忘れないでしょう。その積み重ねが子どもたちの食に対する興味、関心を育てるのだと感じました。私たち保育士も、子どもたちも今までしてきた食育に加え、さまざまな食材にふれて、五感を刺激する経験を大切に、子どもたちと感動を共有していきたいです。



# 法音寺の ホームページが新しくなりました！

<http://www.houonji.com/>



スマートフォン・  
タブレット端末対応！

下のQRコードからも  
アクセスできます



※リニューアルに伴うURLの変更や廃止により、一部のページが見られなくなったり、リンク切れが発生することがあります。この場合は、サイトマップページで該当の情報をお探しいただくか、サイト内のキーワード検索をお試しください。

## YouTubeに 法音寺チャンネルが できました。

<https://www.youtube.com/user/houonjimovie>



ホームページから、またはYouTubeサイトで



◀◀ 左のQRコードからもアクセスできます



法音寺の紹介や歴史、活動記録をご覧になれます。

## 法音寺公式facebookで 『一日一言』配信中!!

※ホームページからもアクセスできます。

Facebookのアカウントをお持ちでない場合

1. [www.facebook.com](http://www.facebook.com)を開きます。
2. 登録フォームが表示された場合は、名前、メールアドレスまたは携帯電話番号、パスワード、生年月日、性別を入力します。フォームが表示されない場合は、[登録する]をクリックし、フォームに入力します。
3. [登録する]をクリックします。
4. アカウントの作成を完了するには、メールアドレスまたは携帯電話番号を確認する必要があります。



# 『福祉のチカラが、これからの日本を支える。TEAM福祉力』

〈全国約7000名が学ぶ日本福祉大学通信教育部〉

日本福祉大学通信教育部では、現在約7000名の社会人が学んでいます。2001年、日本の福祉教育のパイオニアとして積み重ねてきた本学の伝統とノウハウを基盤に、ICTを活用した新しいスタイルの通信教育部として誕生。『福祉のチカラが、これからの日本を支える。TEAM福祉力』というキャッチコピーを掲げています。

この言葉は、建学の精神にある『社会の革新と進歩の為に挺身する志の人を、この大学を中心として輩出させたいのであります』を言い換えたものだと考えています。「社会福祉士や精神保健福祉士の資格を取得したい」「医療・福祉分野のマネジメントを学びたい」「大卒資格を得たい」と、10代から80代までの幅広い年齢層が学んでいます。

入学にあたっては、各自のこれまでの大学・短大等の単位取得状況や資格取得の希望の有無によって、1年次入学以外に2年次・3年次・4年次編入学を、それぞれ選択することになります。

仕事、家事、育児、介護などさまざまな制約がある中

で、学ぶことは決して簡単なことではありませんが、社会福祉士の国家試験合格者数は、9年連続全国大学第1位（2016年度727名）、精神保健福祉士の国家試験合格者数は7年連続全国大学第1位（2016年度127名）という実績を誇っています。また、卒業率も52・4%と、他の通信制大学の平均値（14・3%）を大きく上回っています。

その実績を支えているのは、ICTを活用した学びやすい教育システムと、全国18都市で開催されるスクーリングです。スマホやタブレット、PCで、自分の都合にあわせて24時間いつでも学ぶことができ、科目終了試験や質疑応答もインターネットで実施。パソコン初心者にもサポートを行っています。2018年度からはシステムを一新し、より先進的で学びやすい環境が整備される予定です。

また、土・日に開催するスクーリングでは、2日間集中的に学習をします。出席者からは、「スクーリングで生涯の友に出会えた」「参加した学生同士で、学習会を発足した」という声が寄せられています。孤独に陥りモ



写真提供・日本福祉大学

チベーションの低下が起こりやすい、通信教育のマイナスの側面を補う、貴重な交流の場となっています。デジタルだけに頼らない、「人と人が繋がる」「顔が見える」環境づくりも重視しています。

さらに学費は、経済的にも配慮した制度にしています。通常、大学の学費は履修科目の多い少ないにかかわらず、年間授業料が決められていますが、通信教育部は1単位≒5400円という単位制学費です。したがって、履修科目の量に応じた額となります。通信生はさまざまな理由により、最短期間での卒業が必ずしも多いとは言えません。単位制学費の最大の利点は、在学期間が長くなってしまっても、学習を継続しやすいことです。

通信教育部が加わったことで、本学の卒業生は通信・通学あわせて約82000名(2016年10月現在)となりました。全国にある本学の地域同窓会にも、大学移転前の枳中時代の卒業生、移転後の美浜キャンパス世代、半田キャンパスの卒業生に混じって、通信教育部の卒業生の姿が多くみられるようになりました。3月末には、本学のサテライト・地域オフィスがある、東京・富山・大阪・岡山・福岡の5カ所で、地域同窓会による卒業を祝う会が開催されます。福祉社会の実現に向けて、多くの通信卒業生のこれからの一層の活躍が楽しみです。

これからも全国47都道府県に在住する通信生に、学びやすく満足度の高いプログラムを提供していきたいと考えています。通信教育部の学びのメニューは、オーダーメイドで一人ひとり違います。どうぞお気軽にお問い合わせください。

日本福祉大学 通信教育部事務室 担当…岡野真也・松下契仕

幸せの種まき一人が一人を

〳〵将来どうなる〳〵という

心配が少しでもあるなら

今日とにかく徳を積みましよう

現在に幸せを感じる人は、過去にそれだけの徳を積んだ人。逆に〳〵思うようにならない〳〵と嘆く人は、罪障を作ってきた人です。

大乗山 法音寺

## 編集後記

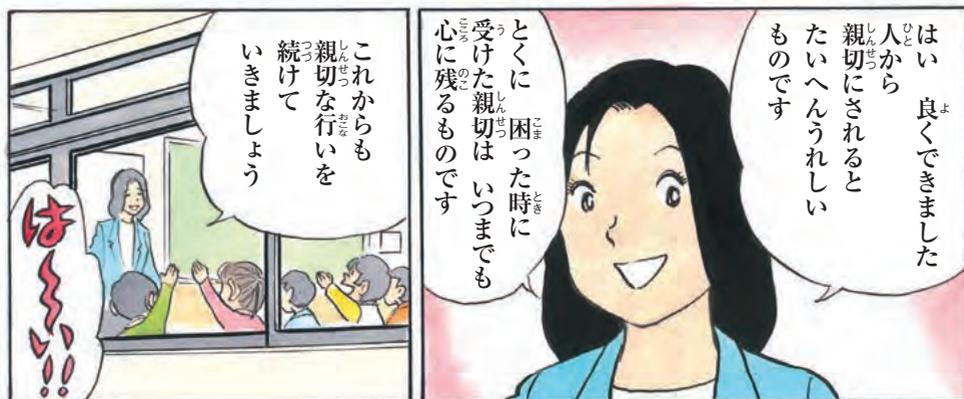
今月の「福祉に生きる」は特集として、社会福祉法人昭徳会「福祉実践発表会」の様子を掲載しました。各施設のすばらしい発表にふれ、ふと、法音寺の信者ではない方たちが、御開山上人の思いを引き継いでこんなにも働いてくださっている〳〵という思いが込み上げてきました。昭徳会の職員の方々も、また日本福祉大学につながる方々も、御開山上人が描かれた理想の社会を実現するため、それぞれの現場で粉骨碎身努力されていることに本当に頭が下がります。

「世の中のお苦しみを、私が全部救います」とお誓いになったお釈迦さま。そして「法華経の教えで世の人々を感化し、万民を救済する」という杉山先生の理念が私たちに法音寺に与えられた使命です。法音寺は、お釈迦さまの思いをまっすぐに引き継いでいるお寺です。お釈迦さまが描かれた理想の世界を実現するために、私たちは、日々三徳を実行し、困っている人を助け、誰に対しても親切を心掛けようではありませんか。

\*お詫びと訂正 三月号（五六九号）16頁タイトルにある「中部地区」は、正しくは「中部教区」とご指摘をいただきました。お詫びして訂正します。

# 親切ポイント

竹中 淳





ああ

花の水やり？



数日後



いいって  
いって  
るだろ！

なんで？  
持つてやるよ



手伝おうか  
重いだろ

いいよ



よう！



？



あんな  
恥ずかしいこと…  
早くわすれようとして  
んのに！



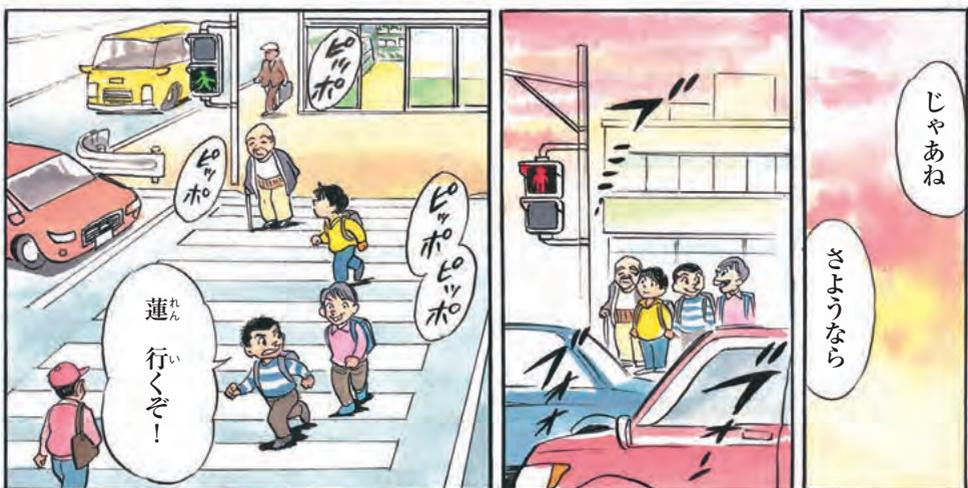
なんだい  
また いやなこと  
思い出させるつもりか？

なあ カレーと  
いえは ヒビ…  
思い出すなあ



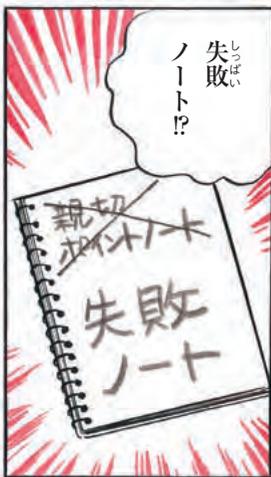
今日の給食  
カレーだな  
あ、  
いい匂いだ！













人に迷惑かけたことや  
失敗したことを  
忘れないように  
しようと 思っ  
てね

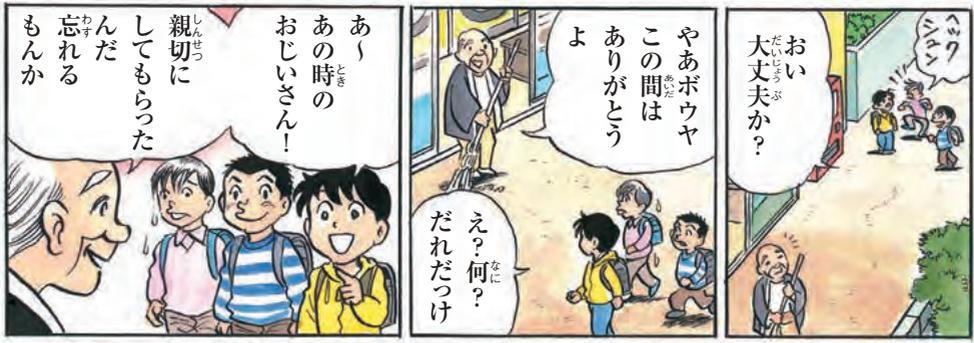
恥ずかしいことや  
つらい思い出こそ  
同じことをくり  
返さないよう  
ボクを助けて  
くれると思うんだ

うーん  
なるほど

蓮！おまえが  
ホントにそう  
思ったのか？

へへへ…  
ごめん  
ばあちゃんに  
おそわったんだ

親が  
ボクに  
失敗



おい  
大丈夫か？

やあボウヤ  
この間は  
ありがとう

え？何？  
だれだっけ

あ、  
あの時の  
おじいさん！

親切に  
してもらった  
んだ  
忘れる  
もんか



キミ！  
ビショぬれじゃ  
ないか

うちの湯に  
入っていきなさい  
カゼひかない  
うちに

ぬれた  
服は  
乾かし  
とくから



よかったね  
タカちゃん  
カゼひかなくて

うん！  
ああ…  
あったかい

おしまい

# 法音寺関連書籍のご案内

## 青山書院刊

東京都杉並区西荻北5-4-1

### 妙法蓮華経略義 鈴木修学 著

A5版上製・863頁・定価6,000円（税込）

### 無量義経略義 鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

### 仏説観普賢菩薩行法経略義

鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

### 撰法華経略義 鈴木修学 著

A6版皮製・101頁・定価700円（税込）

### 仏教聖語の解説 鈴木修学 著

B6版・230頁・定価1,800円（税込）

### 道徳と宗教 鈴木修学 著

B6版・209頁・定価1,000円（税込）

### 教育まんが

B5判 平均64頁 定価各600円（税込）

八正道の話 因縁の話 菩薩行の話  
功德の話 お彼岸のはなし 十界の話  
十王の話 定価1,000円（税込）

— その他多数。お問い合わせください。

## 山喜房佛書林刊

東京都文京区本郷5-28-5

### 鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

浅井圓道 著

四六版上製・202頁・定価1,600円（税別）

### 大乗山法音寺三徳開教百年史

(1) 安立大法尼の時代

A5版・490頁・定価4,000円（税別）

(2) 宗玄大徳の時代

A5版・516頁・定価4,000円（税別）

(3) 御開山上人の時代

A5版・628頁・定価6,000円（税別）

(4) 第二世日達上人の時代

A5版・714頁・定価7,000円（税別）

(別巻) 仏教感化救済会の信仰

A5版・272頁・定価3,000円（税別）

## 中央法規出版刊

東京都台東区台東3-29-1

### 福祉を築く —鈴木修学の信仰と福祉—

西山茂・秦安雄・宇治谷義雄 共著

A5版・224頁・定価3,200円（税別）

### 日本の福祉を築いたお坊さん

星野貞一郎 著

新書版・160頁・定価800円（税別）

※本書の著者印税のすべては、著者のご意志により

「あしなが育英会」に寄付されることになっております。

### まんが・法音寺物語

法音寺広報委員会 企画

上＝安立大法尼の時代

中＝宗玄大徳の時代

下＝御開山上人の時代

B5版・96頁総カラー・定価各巻1,000円（税別）

## 仏教タイムス社刊

東京都新宿区市谷町2-7

### 大乗山法音寺の信仰と福祉

西山茂・小野文瑠・清水海隆 共著

A5版・205頁・定価3,200円（税別）

### 凡夫を菩薩に転ずる僧伽

仏教タイムス編集部

A5版・132頁・定価800円（税込）

### 大乗山法音寺の源流と近現代仏教福祉

浜島典彦・清水海隆 共著

A5版・60頁・頒価500円（税込）

お問い合わせは法音寺事務局、又は各支院・  
布教所にどうぞ…



# 自説誓言

一人を導く功德は広大です  
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂  
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

## 日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135  
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日  
午後1時30分



### 法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

#### 社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮  
名古屋養育院  
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮  
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘  
高浜立庄  
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園  
光徳保育園  
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171  
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

#### 学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211  
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成29年4月号・No.570・平成29年4月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社